

1963 4/15 (月)

VOCALIZE

no 71

AKCヴォーカライズ機関紙 編集 森本 進

Vocalize <76号> 大阪のつどい報告記……………10. 「なつかしい」(藤野)……………4 縁側の猫……………15.	ちいさいあの日にかえりたい サトウ ハチロー ちいさいあの日に かえりたい ちいさいあの日に かえりたい 林の山鳩 田んぼのかえる なき声まねして あるいてた 聞こえないのに 口笛ふくと むらさきあげ羽が すぐにきた 誰でも彼でも 友達だった ちいさいあの日に かえりたい ちいさいあの日に かえりたい ちいさいあの日に かえりたい 子藪のすて猫 どじょうのあぶく いつでも手をふり よんでみた 草に休むと みどりのひげの バッタも帽子に とまっていた 誰でも彼でも 友達だった ちいさいあの日に かえりたい ちいさいあの日に かえりたい ちいさいあの日に かえりたい 野原の子ひばり ひぐれのつばめ あいさつしながら とんでいた 青いビイ玉 片目にあてて あしたの天気を ためしてた 誰でも彼でも 友達だった ちいさいあの日に かえりたい
37年度役員退任の弁……………12. ヴォーカライズこの一年の活動一覧……………16.	4月の演奏会 名古屋 ◇クラシック◆ポピュラー■ステージ ◇ジュリアス・カッチェン・ピアノ演奏会 3日6:30 市公会堂(友の会A) ◇イ・ムジチ合奏団演奏会 8日6:30 文化講堂 ◇チエルニー・ステファンスカ・ピアノ演奏会 8,9日6:30 市公会堂(労音AB) ◇名古屋コンセル バロック演奏会 10日6:30 中区役所ホール ◆シャンソン・フェスティバル 花によせて 石井好子、深緑夏代、中原美紗緒、旗照天、高英男 10日6:30 文化講堂 ◇プロムジカ弦楽四重奏団ベートーヴェン・チクルス ⑤13日6:30⑥14日6:30 中小企業センター ◆北村維葦と東京シンフォニック・タンゴ・オーケストラ 16日6:30 市公会堂(友の会B) ◇モスクワ合唱団演奏会 17日6:30 金山体育館 ◇第三回新人演奏会「37年度音大卒業生」 17日6:30 中小企業センター ◆ライオネル・ハンプトン公演 18日6:30 文化講堂 ◆カテリーナ・ヴァレンティン公演 21日1,00,5:00 市公会堂 ◇ロンドン交響楽団演奏会 22日6:30 市公会堂(以下次ページへ)

◇大中恩合唱作品のタブ コールMeg 東海

メールクワイヤー、東海女声合唱団

22日 6:30 文化講堂

◇名古屋合唱団 合唱と独唱のタブ

23日 6:30 中小企業センター

◇名古屋放送弦楽四重奏団演奏会

24日 6:30 中小企業センター

◇志田とみ子ヴァイオリン演奏会

25日 6:30 文化講堂

◆レイ・アームストロングとオールスターズ

27日 3:30, 6:30 市公会堂

◆東京キューバンボーズ演奏会 29日 11:00,

2:30, 30日 6:30 市公会堂 (労音C)

A K C ヴォーカライズ

今月の行事

◇一泊旅行

室生寺〜赤目

四月六日(土)〜七日(日)

史跡として名高い室生寺と、四十
八滝でしられる赤目への旅行です。

詳細は70号にのっています。

◇38年度役員選挙

四月十六日(月)〜二十三日(月)

郵送方式による今年度の役員選挙
を行ないます。3ページの規定を
よく読んで必ずご投票下さい。

水野俊彦テノール第二回独唱会

とき 38年5月16日(木) 6:30
ところ 栄町・愛知文化講堂

◇おもな曲目

▽第一部 イタリアの近代歌曲

・ペルシコ「七つの小さな歌」

・チマラー「星がまたたいている」

「望郷」

・レスピーギ「霧」

▽第二部 オペラのアリア

・トーマ「ミニョン」より

・マスネー「ウェルテル」より

▽スペインとイタリアの民謡

・スペインIIマドリガル

・イタリアII「君を求めて」「秋」

ピアノ伴奏 伊藤瑜美子

◇会員券 AII(指定席) 三〇〇〇円

BII(自由席) 二〇〇〇円

四月五日より前売中

私たちの仲間、水野君のリサイタルを成
功させるため、皆さんそろって御来聴く
下さるよう、お願いします。

会員券の申込先:

名古屋市中区豊前町×××

浅井幸三

席、枚数を明示して下さい。



このらはA K C関係者の近
況をお知らせするためのもの
です。編集部ではみなさんのお
たよりをおまちしています。

◇この春新に進学先のきまった方をこ
紹介します。(編集部のお知らせ)

横橋 貞雄 中央大学三年編入

佐藤 征夫 北海道大学

朝日 裕晶 愛知学芸大学教職科

足立 靖子 女子美術大学

磯貝 文江 中京女子短期大学

太田 岸子 県立女子大学児童福祉科

加藤久美子 洗足学園短期大学音楽科

白木 倭子 南山大学外語学部

津坂 絢子 名古屋市立女子短大

内藤 毅 日本大学商学部

宮部 杏子 武蔵野音楽大学短大文学部

鈴木由紀子 県立女子大学国文学科

◇進学により住所がかわられた方のう
ち判明分の次の二人です。

横橋 貞雄 東京都世田谷区×××

足立 靖子 東京都杉並区×××

昭和三十八年度 役員選挙

告 示

昭和三十八年度の役員選挙を、つぎのように行ないます。所定のハガキ、方法で、必ずご投票下さい。

記

- 一、選任委員 十二名
会 長 (一名)
副会長 (二名) 以上全体投票
委 員 (七名) ブロック投票
(東京・大阪支部委員を除く)

- 一、投票方法
全会員を記載した投票用ハガキに、つぎのように記入して、必ず期日までに
つくよう投函して下さい。
 - ・会長・副会長を全体から三名
 - 印を三人につけて下さい。
 - ・委員を自分のブロックから一名
 - △印を一人につけて下さい。
- 一、投票締切
四月二十六日(月)〓当日消印有効〓

以上

A K C ヴォーカライズ

- (1) 今年度の選挙は従来同時に行なつて

いた、東京・大阪支部の委員をきりはなし、この両地区委員の選出は、今回の選挙とは別に、この両地区の会員の互選により決定されます。

- (2) 従つてこの選挙によつて選ばれるのは、会長 副会長と名古屋地区の七人の委員です。

- (3) 被選挙者ははがきに印刷された人のみです。このうちから会長、副会長を三人えらんでいただきますが、ここにはブロックの制限がありませんから、全体から三人をえらんで投票らんに○印をつけて下さい。

投票の前に必ずよんで下さい

選挙の方法

まちがうと無効になります

- (4) 委員は自分のブロックから選んでいただきますが、あなたのブロックは投票用のはがきを書いてあります。そのブロックから一人をえらんで△印をつけてください。よそのブロックからえらばれますと無効になります。

- (5) 委員選出単位ブロックは次のとおりです。

- Aブロック：5・6・7期 13名
- Bブロック：8・9・10・11期 12名
- Cブロック：12期 6名
- Dブロック：13期 12名
- Eブロック：14期 3名

Fブロック：15期 〇名

Gブロック：旭丘15期 3名

- (6) 投票は無記名で行ないます。あなたの名前を書いていただく必要はありません。

- (7) 会長、副会長に四人以上をえらんだら、ブロック委員を二人以上えらばれますと、その投票は無効になりますからご注意ください。

- (8) 東京・大阪地区の方は今回は今回は自分のブロック委員の選出は行ないませんので、あなたが名古屋にいた場合に含まれるブロック委員をえらんでください。そのブロックは投票用のはがき

- (9) なるべく規定どおり四名えらんで下さい。一部について棄権されましたも、別にその投票は無効になりません。

- (10) 上記のブロックは四月十日現在の資料で作成してあります。進学、転居などの移動も考慮してあるはずですが、万一まちがいがありましたらおしらせ願います。

- (11) 上記の選出委員の他に、委員会の決定により、Vocalize の編集委員をえらぶこともありますので、この点ご諒承願います。

エッセイ

なつかしい

藤野

絢子

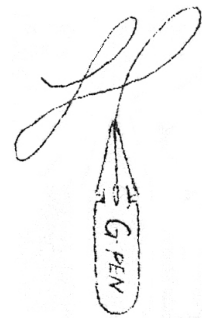
プロローグ

実に長い間サボっちゃいました。毎月送られてくるハガキも出そうと思いつつ、いつもハンドバッグの中で、いきつもどりつ……今年は心をいれかえて、少しでも機関紙の頁数が多くなるように、何かを書こうと思っています

学校にもようやく慣れ、毎日楽しく過ごしています。秋の入学なのでほとんどの人がBGの経験をもっていらいっしやいます。実習をしながらいろいろとそんな話をしたりしますと、何だか大変心強いものを感じます。表面は皆気楽で（私だって皆に負けない位のんきです）何となく学校にきているようですが、それぞれ目的をもってきているのは、気持のいいものです。

しかし、私自身は誰よりもBGの経験が有益だったと自讃しています。わずか一年半のことでしたが、三年位の年月がふくまれているようで、思い出すこと、また、思うことつれづれに書いておこうと思います。これから新たに社会に出られる方々には、少しも益にならないことが少々残念です。

(二)



受験に失敗して180度の回転をし、社会に出たのは十八歳の時です。面接試験だけであつさりA会社勤務することになりました。三月二十一日、初出勤！先輩は一人、現場と事務所合わせて二十名足らずの家族的雰囲気の強い所でした。

まず、どの会社に入っても行なうこと、お掃除、お茶くみ、走り使い、そして電話のとりつき、書類の作成、郵便物の処理、帳簿……八時半から五時半まで、とにかく始めの一ヶ月はまたたくまにすぎました。たいていの人がいやがるのは電話のとりつき、しかし私は割にこのお仕事がすきでした。受話器を手にして「○○です」と社名をなめる時、いいようなない誇りを感じ、「ああ、私は○○社員なんだ」と認識を改にするのも度々でした。二ヶ月になるともうすっかり慣れ、我物顔で社内中をかけ廻りました。その頃です。「ベビーギャング」なるぶつそななニッケネームをいただいたのは……

所長以下、あらゆる人が可愛がつてくれました。先輩のTさんには今でもたまに会いたくなつて出かけてゆきます。さっぱりしていて、きれいに仕事をやる人でした。一生けんめい見習ったおかげで、書類の扱いはうまくなりましたが、この頃はさっぱり！

係長は大の阪神ファンでよく気が合いました。六月に販売課の秘書に命ぜられ、仕事も販売関係に限られました。何せ女子が二人です。現場関係の書類も暇をみては手伝いました。「秘書」BGになったら、これと望んでいたのどにかくうれしかった！

私の場合、強く要求された事は来客の応対です。販売関係の方ばかりですから、気が張つて、まずお茶のいれ方からやり直しました。幸い本社が静岡なので、お茶だけはどこの社よりも美味しくいれることができました。

「お茶をいただきにきましたよ」

こんな言葉をかけられると、二年中お茶係だけでも結構だわ」と喜んだものです。それほど来客がはげしかったのです。

楽しかったのは課長についてよく外回りをしたこと。注文をとるために是非顔をあわせておかねばなりません。殊に電力会社からは一つの注文で何十万という金額になるので、行きがいがありません。

とはいえ、外でお客様に接するのは実に疲れる仕事です。ある会社のK課長はどこでも気むずかしやで有名、初めのころ、そこへ行けといわれると、とたんに憂うつ病にかかってしまった位です。でも、この時ほど「笑い」が大切であることを痛切に感じたことはありませんでした。おハシがころがっても面白い年頃です。何でもない会話の中にちよつとしたユーモアがあるともうだめ！二ヶ月もした頃に課長からの名指しで出かけるようになりました。こうして外廻りの仕事はスムーズに運び、所長から「藤野さんのとった注文が三千万を越してるなあ」なんていわれると、コーヒーの一杯もおごりたくなりました。

苦手だったのは帳簿！割に簡単な形式のものでしたが、（ややこしいのは、大学出のパリパリがやってくれます）何しろ金額が大きいので、そろばんが足りるのかしらと心配したものです。私のところで間違えると、パリパリ小僧に迷惑がかかるので計算だけはきちつと合わせました。それでも、気のりのしない時にやったものは、必ずいつていい位間違っています。よく彼に「コーヒー一杯」といわれたものです。いつだったか、「間違いはないか？」っ

てあまりしつこく聞くもんですから、「ええ、間違つてたらコーヒーおごるわ！」とたんかをきつてしまつて……おかげで辞めるまでに何杯おごらされたかしら。とはいえ、必ずまたおごつてくれましたが…

(二)

仕事に慣れてくるといろいろな人が目につきました。社を離れてからも……そしてその一人Mとは度々帰りを共にして、まだ知らない社内の種々雑多の事をきいたり、遊んだりしました。初めて学生以外の社会人につき合ったのです。といつても全くのチビ扱いで、「オーイ、チビちゃん帰るぜ」という具合…。

この会社の隣りには自動車の販売を扱っている社があり、そこに彼の友達が勤めていました。毎日自動車で出勤する坊ちゃんサラリーマンで帰りはいつも便乗してやります。パチンコたるものに強くなったのもこの頃で、今でも私の棚には景品のお人形がならんでいます。見るもの、きくもの珍しく、何をやっても面白く玉突きもやってみました。

しかしこううした毎日も彼が東京転勤でオシマイ！流石にさびしかったです。転勤してから毎日、お昼になると机のべ

ルが鳴り声だけはきく事ができました。世間というものがいかにむずかしいものかを知らされたのもこの時です。考えのない私達の行動は本社にまで伝わり、人事課長に呼びつけられました。やさしいおじ様でよく理解してくれましたが、「二緒になることはありません。貴女はお家から私達が責任をもつてお預かりしているんです。」といわれた時は、ガク然としました。思いも寄らぬ誤解だと、あいた口がふさがらないほど…。

それから数ヶ月、私は仕事とおけいの虫になりました。「そんな気持ではなかったんだ」とつぶやきながら。（ただ、今思い返してみると、仮にあの時彼が私にプロポーズしていたなら、いったい私はどうしただろうと考えます。）が、短い期間のつき合いで（本当に正味三ヶ月位でしたもの）そんな無責任な事をいう人ではないと信じています。

熱心におけいこに身をいれると、終業時間の遅いのが苦痛になりました。家から社までは四十分以上、おけいこを帰途に済していくと、決つて十時はすぎえます。若い娘が夜遅く歩く事は非常に危険なことですし、母の心配も一倍でした。

(三)

十月頃、意を決して課長に申し入れました。「辞めたい」その要求は意表をつくものでした。自分でもそれはよく知っていましたし、課長としてもやつと仕事を教えたところで辞められるのは絶対に困ると、その代わり何とかして五時には帰宅できるようにはからおうと言ってくれました。しかしそれが無理な事はこの私が一番よく知っています。五時以後が最も忙しく、よくかんしやくを起こしたものです。

社の全体の仕事が早く済まない限り、五時に帰るなんておおよそ鉄を包丁で切ろうとするものです。私はそれ以外は何も理由がありませんでした。仕事には大いに意欲をもやしていましたし、成績も悪くないし：それならいっそのこと、おけいこを一つへらそうと思いました。欲ばりの私には結局、何も捨てるものがなかったのです。

おしもどされたような形でまた仕事についていましたが、その月の終りに女子が一人採用され、私の仕事の一部分を受けもってくれました。なかなか気の合わない私も彼女とはうまく打ちとけましたし、三人仲良く仕事をしました。表面はこうしておだやかにきま

したが、私の胸はファイト満々でした。同年配で今まで他の社に勤めていた彼女とは、ともすれば比較される事が度々でした。「敗けてはならない」彼女が入社して私はますます多くの仕事に手を出しました。時には運送会社に頼みこんで、三日かかるものを、二日で相手方に届けた事もありました。

一方彼女は何に対してもおつとりと構えた、しとやかな女性でした。走り使いに出ると、必ず買ってきて皆にくぼり、自分も机の上にいっぱい広げてポリポリ……。おかげで彼女が入ってから、走り使いにやらされたことはほとんどありませんでした。

いっそうなごやかになった仕事場で、このままやっぱり続けようと、落ち着きを取りもどしたのが二月、そしてその月の二十日かぎり、この社を離れることになりました。わずか十一ヶ月、でも二、三年いたような親しみを感じるところでした。

(四)

私の住んでいるところは住宅街で沢山のアパートが立ち並んだ静かな一角です。そしてその一角に某建設会社の名古屋支店が三階建のビルを構えていました。割

合大きな会社で母とお使いの途中、よく、「こんな近い所に勤められたらいいわネ」、「そうネ、ねがってもない事だわ」と話したものです。そんな話を近所の人にもしたらしく、近くのおば様が「本当にそう思ってるの？」ときいたこともありました。その時は深く考えもせず、「そりゃあね」といったのですが、これが事の誤りでした。

世話好きなその方は、知人を通して話を持っていったんだそうです。丁度事務員が足りなくて募集していたものですから二つ返事でOK、そんな話など忘れてしまった頃に「明日十時に来てくれ」といわれ、びっくりしました。ともかく社には「私用で午后より出ます」と通知しておいて、母と面接に出かけました。入った瞬間「いやに陰気な所だな」と感じましたが、「大会社はどこでも同じようなものだ。」と軽く流してしまいました。

形通りの挨拶を済して、午後には出社しました。出てみるとなつかしいM出張できていました。「あら、ようこそ」「相変わらず元気だな」、その中に「今日ネ」と合図。

前々のこともあるので、彼は一足先に社を出ていつもの所で待っててくれました。

(編集者注。この場合の社とは、筆者が

つとめていたA会社をさすらしい。つまり新しい会社へ面接のため十時にいかなければならないので、A会社へは午後から出社したというわけであるう。

帰り支度をしながら「彼に話してみよう」と思いました。誰かに話さなければたまらない気持だったのです。

「どっちにせよ、機会があれば早くこの社を辞めた方がいい」

「なぜ」と訊き返さなくても、私は彼の言葉の裏を知ることができました。もし決定したら、やっぱり移ろうとよくやく気持の整理をつけることができました。

後につづいたある小さな事件を知っていたら、私はもつとくわしく彼に話すべきだったと後悔しています。

私が移って間もなく、彼はお見合いをして新家庭をもちました。何が彼をそうさせたかあちらこちらで言われるじぶんのうわさでしりました。なんて無責任なうわさかとんだものだ、一時は怒りの気を押えることができませんでした。今はこうした事情は日頃の生活状態がいかに重要視されるものかと、痛感しています。

(五)

予想通りの回答がきて、二十一日より新しい勤め先に出ました。ぼうぜんと見送る人々を後に「しました」。ここでの勤務は工事部の管理課で帳簿の仕事、苦手なもの、おまけにややこしい帳簿で中学時代に習っただけの簿記では歯も立ちません。仕方なく古い本を取り出して勉強しました。一ヶ月、おかげで何とかペも出来るようになりました。もう一人私たちのところへ配属され、帳簿は得意というのであっさり彼女に渡してしまい、全く知らない労災関係の書類を扱うようになりしました。「前のところで、こんなにあっさり人に仕事を渡した事があったかしら」と私は意欲のない自分にはつとすることがありました。

忙しい忙しいといながらも、女子で残業するのは経理課ぐらいです。あとは一日を一時間で出来るような仕事をゆつくりゆつくり引きのばして定刻を待つばかり……こんな時「前のところへいつて手伝ってやろうか」と思ったほどです。それでも私は割に仕事がありました。保険関係の仕事が女子がやるのは私をはじめ、本を読み、説明をきいてのみこんで、仕事をやり終えてふと気づくのは、同僚の冷たい目でした。

ここでの女子の仕事は本当に限られています。お掃除、お茶くみ、書類の整理、そしておもしろいのは判をもらいにいく仕事です。前のところでは自分の作成した書類は責任をもって各自がもって判をもらいにいきました。それがたとえ課長であつても、ご自分でもっていかれたものです。ここでは、「オイ、これ持っていくてくれ」とポンと渡されると、それを持って支店長のところへいき、多少のことをきかれても、「存じません」で判をもらう。あとは又、支店長が改めて電話で訊いたりする次第です。勝気な私はこれがいやでした。

幸い工事関係の書類は簡単なもので二つ説明をきいてからもらいにいったものです。こんな事をいつては語弊がありますが、支店長というものは意外に知らないものです。入社したばかりの私が知っているような事を、平気で質問したりなさいました。

「〇〇工事ってどんなものだネ、藤野くん」

わたしはこの「くん」呼びが相当頭にきました。

「はい。これは何々という工事です」

思いきりすましていったつもりが、

「ハキハキとしていてよろしい」

なんていわれ、当惑してしまいました。

前の社と同様の答え方をしたならば、きつとお小言を丁だいただろうと思うと、「くん」呼びには大いに感謝しなければなりません。私は社内であったことを、皆にいう方でした。その時も例の如くお昼休みに同僚達に

「皮肉ってほめるのよ」

と事の次第を話したのです。無神経なものでしょうか。その頃は余り彼女達の気持がくみとれず、ましてそんな事でシットするとは考えられませんでした。

(六)

梅雨期！一年で最も憂うつな季節に会社は今池のビルに越しました。その頃は何とか百名近い社員の名前も覚えましたが、皆も他の女子とは一風変わった私に注目しはじめました。

実際ここでの私は変人でした。必要以外はいつも一人でした。本を読んだり屋上にいつて歌を口ずさんでボーッと遠くの方をながめたり、ブラブラ歩いたり、そうかと思うと男の人をつかまえて、ハサミシヨウギなるものにつき合せたり、毎日毎日目まぐるしく変わりました。自分でもこんなに変わった姿をみるのがうれしくて、少々いい気持でした。

度々お茶に誘われたり、工事現場に遊びにいったり、相手はいつも異性に限られていました。一番気持が荒れていた時期です。でも私はそれに異様な楽しさを感じ、同僚が何と思うと「私は支店長を始め、各課長に認められている」とびつくりするほどの自信をもちました。

丁度その頃は時折支店長の仕事もお手伝いしました。この会社では別に秘書はおいでいませんでしたし、暇で困っていた時なので、喜んでその命を受けました。といつても仕事らしいものもなく、まづ月。木曜日に支店長室のお花を活けることです。たまたま私のおけいこしている流が同じであったため、実に喜んでくれました。そしてもう一つは、銀行などへ出かける事が多く、その度にくわしい予定をきいておく事です。

然し、私が半年でこの会社を辞めなければなかった理由に大いに影響しています。もちろん最大の原因は我が身のごうまんさにあることは百も承知ですが：

(七)

私は幼い頃から、大阪が好きでした。この会社は本社が大阪にあるので、工事に部にもそちらの人が数人いました。殊に私の兄が住んでいる所から二十分もしな

い所にいる人がいました。彼には総務に親しい女性がいって、公認でした。お昼休みになるといつも二人で食事に出かけるほどで、評判のよい人でした。寮が家の近くにあった関係で、彼とはよく一緒に帰ったりして、大阪の話に花を咲かせたものです。

こんな事が二ヶ月位続いた頃、私は何となくおかしい事に気づき、母に相談しました。

「今の会社は貴女には環境が違いすぎます。お勤めはもうこれくらいにして、何か他の事をやったら？」

たった半年で辞めるなんて……と、未練とも何ともつかぬ複雑な気持で迷っていました。

損な時、以前から仕立物をやってくれていた人が急にだめになり、今までのように早くしてくれる所がなくなっていました。

「そうだが、洋裁をやるう。やっぱ一通りの事だけではダメだ！今から三年位やれば何とか縫えるようになるだろう。」思った事をすぐに実行にうつすというところが、今度は成功しました。私は早速夏休みを利用してS洋裁学院を訪ね、入学の手続きをとりました。

用意万端整えて、私はある日母と共に会社に出向きました。事が決って机を整

理しているところへ、皆が集まり、心にもない（そう思ったんですが、今から思えばもっと率直に受け取るべきだったと後悔しています）名残りを告げました。

しかし、人が日頃から自分の真の姿を見せられないことは、本当に悲しいことだと思えます。私は今までこの社における自分の行動に卑屈さのなかったことに誇りをもち、今までにお世話になったお札をいい、別れました。最後に私が彼女達に

「これからは思いやりのある暖かい人間になるべく努力しますわ」と

といい残した言葉をどう受けとったか、勝手に想像している次第です。

こうしてわずか一年半のBG生活にピリオドを打ったわけですが、静かに考えてみますと、後の会社も立派なところでした。そしてそこに入れなかった自分の性格に、全く弱いところがあると反省しております。

（八）

最近になっても前の会社には時々顔を出しにいけます。ちよつとした書類を手伝ったりすることもあり

「この仕事、ここんどこどうやるの？」

と見知らぬ女子事務員に問われたり…いつも皆が歓迎してくれます。

ここは私にとつて第二の家庭のようなものです。前の自分の席に座ってじっと目をつぶると、いろいろな事が走馬灯のように浮んでは消え、浮んでは消え…Mも今年にはベビーが生まれるとか、例の彼女もこの秋には結婚のためにやめるとか、この間も、つい最近お嫁さんをもらったときいて、

「どうりでいやに栄養たっぷりって顔してると思ったわ」と

とひやかしたりしています。自分の家以外にこうしたおちついた雰囲気をもつことは、よくよくついています。これが今度は二人だけでおちつければ人生は最高に価値ありといえるんでしょうね。

「働く」ということは非常にむずかしいことです。殊に女子の働く場所は範囲がせまいと思えます。いかに良い会社だっても、結局似たような仕事が待っているのではないかしら。でもこんな風に考えるのは私だけでしょうか。

ともかく、これからの二、三年は私現在の生活状態を大切にして、静かに毎日を送ろうと思っております。

編集部だしがき 今月の詩
小さいあの日にかえりたい

サトウ ハチロー

書いてしまってから気がついたのですが、63号に私はヘルマンIIヘッセの「回想」という詩をのつけています。またまた過去をなつかしむような詩を書いてしまいました。またこの詩はあまりにも有名であり、以前のVocalizeにのったことがあるんじゃないかと心配したりしました。

私はサトウ ハチロー氏の言に大いに賛同しているのです。現代の子供たちはなぜ低俗な、わけのわからない歌しかしないのでしょうか。そしてそんな歌ばかり好んで歌うのでしょうか。ハチローさんはいつもこのことをうれえ、いつも子供のために健全な歌をつくらうと努力しておられるそうです。私も子供たちにもっと健全な歌を与えたいいつも思っています。道ばたで遊んでいる子供達がわけのわからない横文字の歌や、歌謡曲の安っぽいのを歌っているのをきくと、実になさけなくなるのです。この詩のように健全な歌が子供達に口ずさまれるようになってほしいものです。

森本 進



A K C ヴォーカライズ 大阪のつどい

そのてんまつ記

松沢
藤井
中尾

「〇号のニュースですすでに紹介済みであるが、一月二十日（日）に行われたヴォーカライズ大阪地区のつどいの報告記が編集部にとどいていないので、やや時を逸した感がないでもないが、せっかく書いて下さったものであるし、なかなかおもしろいので掲載することにした。出席者は松沢、藤井（六）中尾（七）の三名で、名古屋からの出張もなかった。

松沢 暢夫（六）

例年になく寒いこの冬のなかで、めずらしく暖かった二十日の午後、大阪梅田の日本楽器に集まった三人は、ヴォーカライズの中でも年寄りの方に属する面々、そのかみの一号室人種ばかりと相なつた。現在でも旭丘には二号室人種」なる言葉が、あるいはあるかもしれないが、おそらくそれは我々の時代のそれとは、大いに異なつたものであるにちがいない。何となれば、受験戦争の恐ろしくはげしい現代（あ

えて現代という）には、当時のようなのんびりしたい「一号室」があるはずがないからである。さて、そののんびりした一号室人種の集まった大阪地区のつどい、まずは予定のサンドイッチパーラーに向かいのんびりとサンドイッチをかじりつつ、昔話にふけた。曰く、この前の大阪のつどいがいつだったか忘れたの、その時どこかのパチンコやの前で写真を撮ったの、曰く、あの頃こんなだったんだが、今どこに居るの云々と……。あまり長くなつてそこでねばりづらくなつた三人は（三人とも昔ながらに純情なので）音楽喫茶店に居をうつし、今度は先輩格となつた藤井夫人のお話を拝聴、公団住宅に当つた話、坊やがせきをする、と小児科医と結婚すればよかったと思う話、今日は最愛の（と彼女が言つたかどうかは忘れた）夫に坊やと留守居をたのんで出てきた話：まだ若くて純情な独身青年二人はただフンフンと聞くばかり。そしてそろそろおなかのすいてきた三人は、大阪名物一皿五十円のにぎりずしを

ぱくつきに行き、腹ごしらえとして一応チョコ。お寿司屋を出て駅に向う途上、「ああ、ここがこの間写真をうつしたパチンコやだ。」

藤井 容子（六）

ねえあなた！ヴォーカライズ大阪支部大会というのがあつて、名古屋本部から浅井記者や永井カメラマンも来るし、私も是非出席しなければならぬので、ベビーと留守を頼みますわね、□□□と出てきたF。

先日の休みにスキーでころんで、頭を打撲して「ベンケーシー」の治療を要するというM。

昨夜ピーナツの大袋を平らげながら、タルのお酒を平らげてさき程まで寝ていたというN。

期待して出てきたまでは良かったが、集まったのはたつたこの三人、始めはほんの少しチョッピリガツカリしたが、女三人ならずとも結構話題が話題を生んで三時間あまり、河岸をかえてはダベリ、楽しくすごしました。

その録音盤より、

「浅井さんてやせたね」

「えっ！まだやせるところがあつたの？」

……
「夏ちゃんは今居所不明だつて」
「彼女はよく姿を消すね」
……

「大原君は今総子夫人と和歌山にいるつて」

「三羽がらすでは松沢クンが残っちゃったね。いかがですかご予定は？」

「エへへ：増田（藤井）さんの結婚するとき、三〇〇エンだかとられた分、とりかえさにやらんし……」
……

中尾 桂二（七）

久しぶりに大阪地区のつどいが開かれた。この前の会はいつだったか憶えていない位だから、ずい分久しぶりだった訳だ。メンバーは藤井さんと松沢さんと私のたつた三人。その藤井さんもこの前の会合ではまだ増田さんと呼んでいたのだ。皆今度は少しづつ大人になったが、昔と変らないところが多い。楽しい想い出話や、近況など語り合ううちにおひらきの時間になってしまった。

それはそうと、私は名古屋の会合にも正月二日出席した。先日、永井君の撮ったその時の写真を送って頂いたの

だが、余り皆が変わったとは思わない。歌を歌ったり、ダイスやカードをして夜の更けるまでさわいなのだが、一号室時代の雰囲気を経分上品にしたようなもので、その根底にある和気あいあいとした雰囲気は変わっていない。全く旧友たるものすばらしいものだ。

空白を埋めるためのコーナー

ぼうふらの日記より

×月×日 三十三問題をどうやって百点満点として採点するかが問題となり、ついに名前が書いてあったら一点やることに決定。0点をとらせない大変立派な方法である。

×月×日 刀のそりが時代によつてちがうという話から、刀のさやが問題になった。T教諭が「どんな刀にもさやがある」といわれたのに対し、H教諭が「青竜刀にもさやがあるか」と質問。これに対するT教諭の答、「そりやあ、あるよ。ぬくときにはホックをはずして、えんどうのさやからまめをぬき出す要領でやるんだ」まったくすばらしい答弁であるが、青竜刀がえんどうの親戚であるとはしらないんだ。
×月×日 鉄筋校舎の屋上によじのぼる。まだ工事中であるため目ぼしいものは

一つ残念だったことは旭丘の校歌を四部合唱できなかったことだ。この次には皆あらかじめ備えておきたいものだ。音楽の好きな人に悪人はいないとポン太郎先生はよくいわれた。この善人の集い、ヴォーカライズのに益々の発展を期待する。

何もない。セメントとブロックと紙くづ少々、くぎのまがつたやつ、ギツチョンチョンする（失敬する）ものは何もなく、ヘッピリ腰でのぼって肝をひやし、いらん努力をつかってエネルギーの損出になっただけ。

×月×日 一年間たまったいろいろなプリントをかたづけた。テスト、社会科資料など合せるものすごい量になる。これをもやしなから考えた。仮に一人の人が一年間につくられるプリントのあまりが100枚あったとしても、30人いれば3000枚にもなる。これは相当な金額になるはず。もったいない話である。毎年毎年数千という金が灰になっていくのかと思う、すこしばかり考えさせられた。チリもつもれば山となるとはよくいったものだ。

AKC ヴォーカライズ

昭和 37 年度委員 退任にあたって

AKC ヴォーカライズの昭和三十一年度はまたまた多くの問題のこしておりました。発行された機関紙 Vocalize が八号分、しかもそのほとんどはその場主義のまにあわせものの的な性格をもっていました。各種のつどいもかんばしくなく、特に夏のキャンプの中止と、秋のハイクの貧弱さは今後も大きな問題として残るでしょう。全部が全部委員の責任ともいえませんが、この年度をおえるにあたり会長、副会長、委員、それぞれの立場から退任のごあいさつをいたします。

職務怠慢の弁

副会長 鈴木道郎 (十二)

とにかく、おそまつな、我ながらなさけない一年でした。初めからおしまいまで、みなさんにご迷惑をかけっぱなしでした。就任早々森本会長の足をひっぱったのが私でした。それから65号の一件、夏のキャンプ、秋のハイキング：言い出したらきりがありません。

私の無責任さかげんに、みなさん驚いていらつしやることと思います。私自身「こんな自分ではなかったはずだ」と、自分のことがぐちゃぐちゃでならないのです。

しかし今考えてみて、「なぜあの時ほかの委員に頼むことができなかったのだろうか」と思うのです。自尊心？：もしそんなものがつめのあかほどもあったなら、こんな事態にはなっていないかったでしょう。忙しかったから……こんなことは言い訳のきれっぱしにもなりません。それではなぜ、なぜ率直に頼むことができなかったのだろうか……。

今となつてはもう何もいいますまい。いや何もう資格はありません。率直にお詫びします。どんな罵倒にも甘んじます。みなさん、どうか私を責めて下さい。きざないいい方かも知れませんが、そうして下さることが私にとって一番ありがたいことなのです。そして一人にさせて下さい。静かに考えさせて下さい。私自身のことを……。お願いします。そして私自身に自信の持てたとき、そのときにまたお目にかかりましょう。

委員 タイマンの弁

委員 伊藤真知子 (十四)

一年ははやいものですね。昨年の四月に委員になつてもう今は再び役員選挙が行なわれようとしているんですから。この間に出された Vocalize がわずか八回、全く人ごとのように言っていて申しわけありませんが、しかし、内心非常に反省しています。

今年こそは浅井副会長の手をかりないでヴォーカライズをやっていこうと思つたものでした。四月の決意はりっぱでした。結果はごらんの通りです。それにしても原稿の集る時は集るもの。ない時はちつともないものですね。もし一月に一つづつ委員の皆さんの原稿がありましたら Vocalize は休刊しないでしょう。次に選挙される委員の方、今年こそは浅井さんが楽隠居（まだ、そんな年じゃないって怒られそうですが）できるようなヴォーカライズにしてください。

自分の穴の中へ……

さようなら、私はお別れを言います

副会長 浅井幸三(五)

長いことお世話になりました。私がヴォーカライズのために多くの時間をさくようになってから六年半、皆さんには迷惑のかけっぱなしでしたし、ずいぶん助けてもらいました。ヴォーカライズの仕事ほど私にとってやりがいがあり、実のある勉強になったものはないのです。信頼に足る多くの友人を得、人の情がどんなにありがたいものかも、うれしいほどに味わわせてもらいました。

けれども、いまはこうして皆さんにお別れを言います。私は「自分の穴の中」へ帰ります。六年半の間、ヴォーカライズに注いできた情熱は、いまも少しも変わっていません。むしろ、いまでもなおやらねばならぬ責任を強く感じているほどです。そうした気持ちを押えて「引退」をあえて表明するのは、少し疲れてきたからです。もう一つには、私がいつまでも役にとどまることによって、みんながどうしても私にたよりがちになり、当然自分たちで

できることまでもわたしにやらせる空気が残っていることを感じたからでした。私がいなくてもヴォーカライズはつぶれないでしょう。むしろ、いなくなった方がみんなの会として育っていくのだと思うのです。

「浅井さんは外に出すぎるんだわ。だからきつといつまでも家庭的になれないのね。」

私の旧友のひとり、いみじくもそう喝破しました。当たっていると思います。私の生活には、家庭的なふんいきなど一かけらもありません。つねに外にいるか、家にいてもよその仕事をしているか……。いままで「独身」でいたのも偶然ではなかったのです。

「君がやめたら、君自身とのつながりでヴォーカライズにはいつている人たちが一度にやめてしまうんじゃないか」という人もいます。私はしかし、そんな思いつきを持った考えを持ちたくありません。そんなことはないはず。私との付き合い、やむなくヴォーカライズにとどまっていた人がいかなどとは信じられません。私にはそんな「魅力」も「牽引力」もないのです。そのことは、私自身が一番よく知っています。

たった一人でがんばった時期もありました。幾晩も考えあぐねたり、ほとんど

絶筆の極にありながら、なおかつ投げきれないで、しがみついてヴォーカライズの仕事をしていた日もありました。それほどまでに執着し、そして自分の生活の、いや私自身の一部とさえなっていたヴォーカライズから身をひこうとする気持ちをわかってくださる人もいるでしょう。こうさせたのはだれでもなく、私自身であり、あなた自身だったのです。

わたしはもう「ヴォーカライズ」の仕事はやめます。そして「家庭的」なふんいきを持てる男になりたいのです。「人間的」な思いやりのある男になってみたいのです。

言いたいことはいくらでもあります。将来のことで全く不安がないわけでもありません。しかし、そんなことは忘れません。とにかく、いまヴォーカライズにとつて一番必要なのは、私が消えてなくなることなのです。それによって新しい時代が生まれるのです。

さようなら、ほんとうに長いことありがとうございました。皆さんの好意と友情を、私はいつまでも胸にして、きつと大事にします。「浅井幸三はいなくなったのだ」と思っ

て、皆さんの手でヴォーカライズをささえてください。これだけが私の望みです。

ー
たいにんのべん・たいにんのべん・たい

ぼうふらのひとりごと

「やはり私はだめでした。」

会長 森本 進

今、私はヴォーカライズの仕事をしています。原稿用紙に向かって何かを書こうと思っています。ところが私の頭にかんでくるのはヴォーカライズとはおよそ関係のない、学校の生徒達の事ばかり、いつのまにか私は彼等にああいつてやればよかったとか、あの指導でよかったのだろうか、などと一生けんめい考えているのです。そしてしばらくしないと原稿用紙を広げていることに気がつかないのです。

こうした私の気持、これが今年度ヴォーカライズが不振であった最大の原因でしょう。申しわけない話なのですがこの一年ヴォーカライズのことを本当に真剣に考えたことは、おそらく一度もないでしょう。ヴォーカライズの仕事をしなければいけないということは、いつも頭にあります。「とにかくオレは会長なんだ。会長として職務はたさなければいかんのだ。」とはいっと思いません。ところがちっとも実行にうつせないのです。委員会をひらいて、いろいろの議事をとりまとめ、原

稿をたのみ、諸行事の打ち合わせをする。こと。さらに原稿をまとめて Vocalize を編集すること。どの仕事にも私にはさっぱり興味がなくなっていました。もっとはっきりいいましょう。おどろかれるかもしれないませんが、ヴォーカライズ関係の仕事のために時間をさくことが私には一つの罪悪のようになんて思えたのです。

「なんというひどい奴だ。それでも会長か」とおこられる方もいるでしょう。そう思われてもしかたがありません。しかし、学校のため、生徒のためにやらなければならぬこと、あるいはやってやりたいこと。そうしたことをさしおいてヴォーカライズの仕事することは私にとっては何となくいえないことです。私は教師という仕事にすごく生きがいを感じています。どんなにやっかいな仕事であろと、生徒のことを思うとすごく幸福を感じてその仕事にむかえるのです。ところがヴォーカライズの仕事にはそうした生きがいを感じないのです。たとえイヤイヤながらであったとはいっても、一応会長に就任することにしたのですし、まがりなりにも一応の方針をうち出した私でした。ところが一つとして実現したものはありません。それどころか、「ハガキは必ずかえして下さい」といいながら、会長である私自身一度もか

えさないで終わりましたし、機関紙 Vocalize を本気になって読んだこともないかもしれません。人からいわれると「ああそういえばそんなことが書いて」あつたなあと思うくらいのもので。こんな人間が会長であつたということは全くゆゆしいことではありません。

そうしたんでもないことをやってきながら、私は「申しわけありません。私がおわるのです。おゆるし下さい。」といつてあやまる気持がでんでありません。いけないことかもしれませんが謝罪する気になれないからしかたがありません。またそういう気持がちっともしないくせに、口さきだけ自分の気持をまげているという芸当もできないのです。もし私に責任をとれたの、あやまれたのということを強く要求する人があれば、おそらく私はひらき直るでしょう。決して自分のした事、あるいは今している事が正しいとは思っていませんが……とにかくヴォーカライズの会長は、私のようなぼうふらにはつとまりません。不適格なのです。

縁側の猫 第一回

春になれば

桜井茂徳

大仏のうつらうつらと春日かな 子規
 百花咲きほこり、百千鳥なく、森羅
 万象すべて自然の陽気に輝き喜ぶ季節
 云々の春、どじよっこやふなっこが春
 だなあと東北の春、冬来りなばの光輝
 く春、一刻の寝坊は千金だといったの
 はモロコシのお方、春という言葉には
 なんと云えないやわらかい味がある
 ではありませんか。こんな春に一日ボ
 ンヤリとこころよい陽を浴びながらウ
 トウトとまどろんでいるのも、きつと
 気持のよいことでしょう、しかし仕事
 中や勉強中のウトウトはやはり遠慮し
 たほうがよいと思います。(時ならぬ春
 雷が落ちるようなことになりかねない
 から) 御用心御用心、春になれば花が
 咲く、これ当然のお話し、花はきれ
 いなものこれまた然り、(きれいな花には
 刺がある)そして花にはいいかおりが
 ある。これを香水にしたらと思うお嬢
 さん方もありでしょう。もしバラの
 花の蒸留で香水を作ろうとすれば、畳
 十畳許りの室一パイの花が必要なので

す。これは一リットル作るときの話なんです。

春になればすべての人は行楽地へ出かける。やれ十万、二十万の新聞種です。あんなザワザワしたところへ行つたところで、別に何ともないと思うのですが。それよりも私は新緑に映えた浅い山の中を、時間を考えずブラリブラリと歩いて新鮮な空気を吸うことが、どんなにすばらしいことか知っています。

春はいいですね。まったくすばらしいものです。私ですか、私は縁側の猫、どこにでもいる縁側の猫です。ああいい気持、ではもう一ねむり ZZZ・

おしらせのコーナー

○この縁側の猫は毎月連載される予定です。ごきたい下さい

○今月のはがきが二枚はいつております。選挙用の方は二十六日までには必ずおかせ下さい。新しい委員への注文らんもありますから、どんどんご意見をお寄せ下さい。コーラス用のはがきは会員登録をかねておりますので、これも早く出して下さい。

Invention

○この号で昭和三十七年度のVocalizeはめでたくおわりをつげます。ちつともめでたくなんかないぞとおしかりをうけるかもしれませんな。

○今年の冬はめつぼう寒く、地球全体がおかしくなつちやつたのではないかという人さえいたそうですが、どうやら春はまちがえずにやってくる桜もきれいに咲きました。四月はなんでもが新鮮になる時期なのでしょう。新入社員、新入生、みんなはつらつとしていて気持がいいですね。

○そこでヴォーカライズも新しい委員の選出することになりました。ものすごくファイト万々の委員が出て、ぼりばりやってくれるとうれしいですね。みんなでそうした人をえらびましょう。投票規定をよくよんで、無効にならないよう、またしめ切りにまに合うようにして下さい。

○今月号は藤野さんの長いお話でページが大分うまりました。なかなかおえられるところの多いお話です。この他渡瀬さん(十六)の修学旅行記、横橋君(十二)の京都徘徊記などをいただいておりますが、ページの関係上次号におくらせていただきました。あしからず。(本)

A K C ヴォーカライズ

1962 年度の活動

□ 機関紙 Vocalize の主要記事

第 63 号 37 年 5 月 10 日 (木) 14 P

なつかしきタヌ公 (都築先生に寄せる会員のことば) CHORUS
会長就任の弁 (森本) 長池のぼうふら (森本)

第 64 号 37 年 6 月 10 日 (日) 12 P

タヌケル、タヌケス、タヌケム、タヌケン (松沢) 会員インタビュー (森本) 今月の歌 (Tonight) プロフィール (太田岸子 加藤千鶴子) 会員名簿 (別刷)

第 65 号 未発行

第 66 号 37 年 11 月 1 日 (木) 12 P

ある昔のつながり (十年後の会のこと) CHORUS 東京ヨチヨチ歩き三題 (横橋)

第 67 号 37 年 12 月 1 日 (土) 16 P

A K C 37 年度発表会特集 (文化祭雑感、発表会プログラム、座談会「発表会の反省」、多くの苦言と少しの感想) 段階によせて (永井) ボログツ漫步 (横橋) 38 年度前半の音楽界

第 68 号 37 年 12 月 25 日 (火) 8 P

みんなの歌 (小さい秋見つけた、ばら色の街で) CHORUS プロフィール (津坂絢子)

第 69 号 38 年 1 月 25 日 (金) 20 P

アンケート (37 年のできごと 38 年のプラン) みんなの歌 (日本語のおけいこ) CHORUS 座談会「38 年度のヴォーカライズを占う」インタビュー (水野夫妻) プロフィール (笠間茂樹、渡瀬陽子)

第 70 号 38 年 3 月 17 日 (日) 20 P

アンケート (2 月 16 日の私) 神藤さんおめでとう (浅井) 15 期生におくることば (道郎) CHORUS プロフィール (服部修、泉谷芙紗子) 400 字コーナー

第 71 号 38 年 4 月 16 日 (月) 16 P

なつかしい (藤野) 38 年度役員選挙告示 委員退任の弁 (ぼうふらのひとりごと、自分の穴の中へ、職務怠慢の弁、委員タイマンの弁) 春になれば (桜井)

□ 諸行事

・都築先生、森下先生歓送迎会 (37 年 4 月 29 日・栄町プランタン)・ヴォーカライズ合唱団練習再開 (37 年 6 月)・秋のハイキング (宮路山〜五井山〜蒲郡、37 年 10 月 21 日・クリスマスうたのつどい (37 年 12 月 23 日、旭丘高校音楽室)・春の一泊旅行 (室生寺〜赤目、38 年 4 月 6、7 日)

1963.5.20 (月)

VOCALIZE

No. 72

発行・AKCヴォーカライズ

編集・浅井幸三

汚れちまった悲しみに

中原 中也

汚れちまった悲しみに

今日も小雪の降りかかる

汚れちまった悲しみに

今日も風さえ吹きすぎる

汚れちまった悲しみに

たとえば狐の皮裘(かわごころも)

汚れちまった悲しみに

小雪のかかってちぢこまる

汚れちまった悲しみに

なにのぞむなくねがうなく

汚れちまった悲しみに

懈怠(けだい)のうちに死を夢む

汚れちまった悲しみに

いたいたしくも怖気づき

汚れちまった悲しみに

なすところもなく日は暮れる

Vocalize <76号>

- ◇CHORUS (会員近況) 4
- ◇「修学旅行記」(渡瀬陽子) 8
- ◇「室生寺の旅」(リレー報告) 13
- ◇「浅井君退会をめぐって」 16
- ◇「汚れちまった悲しみに」 20
- ◇「京都徘徊の記」(横橋貞雄) 24
- ◇プロフィール 小沢裕子さん(十六) 24

5月の演奏会 名古屋

◇クラシック ◆ポピュラー ■ステージ

◆東京キューバンボーイズ

1日 6:30 市公会堂(労音C)

◇ロベール・カサドシュピアノ演奏会

1日 6:30 文化講堂

◇ナルシン・イエペス・ギター演奏会

9日 6:30 市公会堂

◇読売日本交響楽団演奏会

指揮 ウィリス・ページ「新世界」「シエラ

ザード」13日 6:30 市公会堂(友の会A)

◇水野俊彦(テノール)独唱会

16日 6:30 文化講堂

◆南里文雄とホットペッツパーズ 18・20日

6:30 19日 □30 市公会堂(労音C)

◆セロニアス・モンク・クワルテット

19日 6:00 文化講堂

◇松浦豊明ピアノ演奏会

20日 6:30 文化講堂

◆マルセル・アモン(シャンソン)公演

21日 6:30 市公会堂

■藤原歌劇団・オペラ「カルメン」公演

指揮 福永陽一郎、大阪フィル、成田、宮

原、神原、高田 26日 1:00、5:30 27

日 6:00 市公会堂(労音AB)

◇ノイエ・シュタット弦楽四重奏団演奏会

28日 6:30 CBCホール

◆カウント・ベイシー楽団公演

30日 6:30 市公会堂

◇NHK交響楽団演奏会

指揮 ジャン・マルティノン「幻想交響

曲」「春の祭典」31日 6:30 文化講堂

昭和三十八年度役員決まる

A (567期) C (12期)

両ブロックは決選投票

会長補充問題も……

昭和三十八年度A K Cヴォーカライズ
役員選挙の投票は、四月二十六日締め切
られ(同日付け消印有効)次の人たちが
新役員に選ばれた。今回の選挙の特徴は、
若手ブロックの委員が大幅に入れかわっ
たことと、投票(得票)が割れて決定に
至らないブロックが出たことで、これら
の点については、あらためて方策が講じ
られる。

会 長 浅井幸三(五) 〓前〓
副会長 森本 進(十) 〓前〓
同 安田軍二(十三) 〓新〓
委 員
同 永井 充(八) 〓再〓
同 林 茂樹(十三) 〓新〓
同 矢野公子(十四) 〓元〓
同 鈴木由起子(十五) 〓新〓
同 笠間茂樹(十六) 〓新〓

なお、東京、大阪両支部委員は別途に
選出されることになっている。

「会長・副会長選挙得票表Ⅱブロック別Ⅱ」

氏名・期	投票者数	ブロック						
		A	B	C	D	E	F	G
◎ 浅井幸三(五)	6	2	4	2	3		4	
○ 森本 進(十)	2	3	2	3	2		2	
○ 安田軍二(十三)	2	1	2	4	1	2	3	16
鈴木道郎(十二)	1	2			1	4	2	10
永井 充(八)	2	1	2		3	2	1	9
伊藤真知子(十四)		1		3		1		9
若林延昌(五)	2	1		2				5
水野俊彦(六)	1		1					2
毛利 豊(五)								1
佐々知子(七)		1						1
千本木宣子(十)				1				1
森 泉(十)	1							1
服部 修(十二)				1				1
川村朋子(十三)	1							1
林 茂樹(十三)			1					1
藤野 絢子(十三)		1						1
水野公子(十三)						1		1
白 票	11	3						24
会員数	20	15	12	13	9	9	3	81
投票率	0.450	0.467	0.250	0.615	0.444	0.667	0.667	0.481

(注) 順列は得票順、同数の場合は五十音順
による。

「ブロック委員選挙得票表」

ブロック		氏名		期	得票
A	△	浅井幸三	茂樹	五	2
		毛利 豊	絢子	五	1
		水野俊彦	公子	六	1
		佐々知子	白 票	七	1
B	△	永井 充	茂樹	八	4
		上前唱三郎	絢子	九	1
		佐藤治江	公子	十一	1
		白 票	白 票		
C	△	高橋洋子	茂樹	十二	1
		高原敏子	絢子	十二	1
		無 効	公子		
			白 票		
D	△	林 茂樹	茂樹	十三	5
		藤野 絢子	絢子	十三	2
		川村朋子	公子	十三	1
			白 票		
E	△	矢野公子	茂樹	十四	2
		伊藤真知子	絢子	十四	1
		白 票	公子		
			白 票		
F	△	鈴木由紀子	茂樹	十五	5
		太田岸子	絢子	十五	1
			公子		
			白 票		
G	△	笠間茂樹	茂樹	十六	2
			絢子		
			公子		
			白 票		

<3>



この欄はA K C関係者
みんなのニュースを知ら
せ合うためのものです。だ
れのことでも。どんなこと
でも、忘れずに連絡して下
さい。

◇：浅井幸三君(五) 一身上のつづいで、
ヴォーカライズを三十七年度限りでやめ
ることになった。このニュースが1号に
掲載されず、役員選挙の結果会長に選ば
れているが、善後策については五月十九
日の第一回委員会で討議される。

◇：佐々木比呂子さん(七) 同じく三十
七年度をもって退会した。ただし、「暫時」
とのことで、機会があれば復帰するとい
う。

◇：新入会員のお知らせ 三十八年度よ
り新しく会員に加わった。

・近藤磨里子さん(五) 〓西野〓
名古屋市千種区自由ヶ丘×××

◇：磯貝文江さん(十五) 前号既報の大
学は誤りで、つぎのとおり訂正。

柳城女子短期大学

◇：安藤陽子さん(七) このほど左記へ
転居された。

名古屋市守山区小幡×××

◇：石井よし子さん(九) 三月中旬つ
ぎのとおり転居。

東京都世田谷区×××

◇：加藤久美子さん(十五) 通学のため
の止宿先がつぎのように決まった。

鎌倉市岡本×××

◇：宮部杏子さん(十五) 東京での止宿
先は次のとおり。

東京都練馬区×××

◇：電話が開通した人(自宅)

毛利 豊君(五) ×××

佐藤治江さん(十一) ×××

志水照代さん(十三) ×××

◇：電話番号の変更

谷美保子さん(十四) 福岡×××

東京女子大学〓局番変更〓339

関係者 加藤厚子さん

池谷芳子さん

谷美保子さん

の三人

◇：愛知県愛知郡鳴海町は四月一日、名
古屋市に合併、名古屋市緑区鳴海町とな
った。関係者の住所を訂正されたい。

水野俊彦君(六)

◇：横橋貞雄君(十二) 五月六日、東京
での止宿先を次のところへ移した。

東京都港区×××

電話×××

◇：竹内英子さん(三) お知らせが遅れ
ましたが、昨年結婚され、新居をつぎの
ところに構えた。〓新姓・平〓

名古屋市昭和区小桜町×××

◇：広瀬治さん(十二) 〓東京学芸大学〓
しばらく休会していたが、本年度より再
び会員に復帰した。

東京都北多摩郡小平町×××

名古屋市千種区霞ヶ丘×××

◇：岡嶋孝君(十三) 間野美容学校を修
了後名古屋へ帰り、つぎのところへ住み
込みで修業中。

名古屋市昭和区川名本町×××

××美容院 電話×××

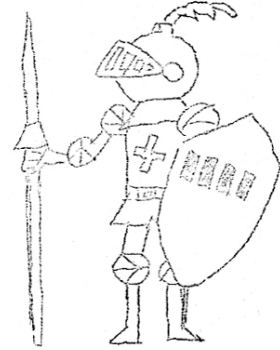
◇集まり・催し◇

・十三期の会 四月四日(日)

初寿司 〓報告は7ページ〓

・十年後の会(都築先生を招いて)
六月十六日(日) 水野君宅(予定)

Chorus



<4月中-下旬分>
—到着順—

横山二三子（七）

二月一日に新米ママさんになり、毎日バタバタと忙しく過ごしております。まだまだママの気分になりきれず、子供にたいへん申しわけない次第です。それ笑ったとか、あくびしたとか、家の中は大騒ぎ。どちらが子供なのかわからないくらい。でも、とっても楽しい毎日です。

磯貝 文江（十五）

どうやら大学生になりました。四月十七日が入学式ですので、まだのんびりしています。学校が始まると日曜日は礼拝、月曜日はピアノと、ずいぶん忙しいことだろうと、少々うんざりです。でも二年後に、かわいい幼児を教える姿を夢にみて、がんばるつもりです。

金谷 京子（九）

まことに申しにくいのですが、四月号会紙とても読みづらくて、とうとう途中でやめてしまいました。
五月号「旅」（交通公社発行）の汽笛に私の雑文が載っていますので、ヒマな方は見てください。

池谷 芳子（十四）

めでたく二年に進めました。青くなつて心配した仏語も、小指の先ぐらいで、つり上げてもらい、やつと解放されました。今のところ科目の選択に日夜頭を悩まして、三年、四年生のお部屋に夜ナヨナ出沒しています。忙しいので、こんなに取るにはいやだ、とダダをこねると、二年からそんなことではダメ、なんてしかられたばかり。でも、私のところにも一年生がたずねてきて、相談に乗ってあげました！二年生のカンロク十分です。ボロの出ないうちに、……さようなら。

渡瀬 陽子（十六）

クラス割りで笠間君と一緒にになり、お互いにながかりしています。これからは教室で大きな声で歌えなくなりました。きつと私は音楽部の叛逆児です。

水野 公子（十三）

岡崎へ通学するようになってやつと一週間。毎日が遠足をしているようで、たいへんです。学校では授業ごとに一つの山（ちよつと大げさすぎました）を越えて、と思えるほど、あちらこちらへ動き回ります。そのかわり見はらはしいので、休憩時間には遠くの山々をながめては、からだを休めています。

クラブは一生懸命やろうと、岡崎の混声へはいったんですが、A、T、Bのどのパートもしつかり音程がとれず、まとまらないので、少々がっかりです。そのまま続けようか、やめようか、迷っています。

足立 靖子（十五）

浅井さんや森本さんの退任にあたつての原稿をお読みして、大へん悲しくなっていました。特に森本さんののは……。私たちがたしかに協力がたりなかった。私のように寮生活をしていると、ヴォーカライズが大へん待ちどおしい。皆でヴォーカライズを守りましょう。私も自分でできるだけ協力いたしますから。私は三階生活だから、窓から見えるのは屋根ばかり。でも今は桜がとってもきれい。

永井 充(八)

また春です！ぼうふらさんの話もよくわかるし、藤野さんの生き方もわかるような気がするし、浅井さんも男になってほしいし！私だって、春の日にもの思いにふけりながら、緑の土手の上にねころんでみたい！

溝上 崇子(七)

現在住んでいる家を約一年後、出なくてはならないことになり、これ以上家賃の高い家にはとうてい移れず、しかたなく、どうしても気に入らないダンチ族になるべく公団や都営の住宅の募集があることに目の色を変えています。それにしても、これは場所が不便すぎるとか、部屋が小さすぎてダメだとか、こちらで都合のいいのは戸数が少なくて、サッパリです。

谷 美保子(十四)

寮に新入生がはいってきて、私もやっと二年になったような気がします。でも、なにか緊張したような、責任を感じるとか、部屋が小さいです。よき二年生であるためにガンバラねばなりません。

加藤久美子(十五)

毎朝汗をだらだら流しながら通学。春はもう行ってしまったのかしら？ ホント！ 春ってあったのかしら。私の今いるところは鎌倉です。由比ヶ浜、七里ヶ浜、江ノ島、逗子、葉山等、すてきな浜がつづいていきます。お散歩するのに最適です。

石黒 鋒子(十二)

「かなしみ」にさらばをつけて

彼女よりはるかに遠く

へだたりぬとわれ思ひしに

たのしげにたのしげに

われをいと彼女は愛す

かばかりに操ただしく ねもごろに

われを慕うや

あざむきて捨てんとすれど

あはれ彼女は操ただしく

我を慕へり

ー J・キーツ ー

ああ！

鈴木 道郎(十二)

・選挙のバイトも終って、ヒト息ついたところですよ。

・これからは学校、朝から晩までいろいろしぼられることでしょう。

・ことしは一人静かに暮らすつもりです。

伊藤伊都子(六)

三月一日に男子出産。ベビーに毎日振りまわされる忙しい日々です。ママさん一年生で目をまわしています。

宮部 杏子(十五)

下宿へ来て十日余り。毎朝夕食のしたくを頭を痛めています。安くて栄養があつて調理の簡単なお料理をお教ください。

下宿へピアノがまだ来ないので、毎朝五時に起きて学校のピアノを借りに行つてます。おりこうでしょ。みんなもチート見習わなければいけません。

藤井 容子(六)

近況 予定 別に。

毛利 豊(五)

あまり帰りが不規則なので、電話を引かされました。当分一方通行の電話が多いと思います。たとえば、「今晚来客でおそいから」というようなネ。まあまあ、からだをこわさない程度に社業に励んでおります。

加藤 厚子(十二)

いよいよ四年生、寮のぬしの存在になりつつあります。でも、いたって気が弱く、久しぶりにホームシックにかかって涙をこぼしました。四月二十六日には帰名したいと思っています。

園部 靖子(十)

この二週間ほど、お昼休みも返上で働かされて、いささか閉口しています。土、日(二十、二十一日)の旅行は、前日雨でしたのに、心がけがよかったと見えお天気にめぐまれ、袋田温泉も大洗海岸も水戸の偕楽園もたいそうすてきでした。技術部六十余人の大旅行でしたが、けっこうたのしく行ってきました。連休も、どこへも行けそうになく、つまりません。

藤野 絢子(十三)

旅行に行つて、集会に参加したら、おこづかいが無くなつてしまひ、すべてのプランが夢となりました。これは来月にまわして実行するつもりです。

六月の四日に、私の学校がテレビに出ます。ぜひみてください。CBCの「源平芸能合戦」で、運がよければ出られそうです。

松沢 暢夫(六)

この四月から会社で六年生。小学校でいえば最上級生ですが、会社ではまだまだ若い方、と思いきや、この間、課内ソフトボールのOB・YB戦でメンバー表をみたら、何とOBに名を連ねていました。まだ髪も黒々、皮膚もピンピンなのにガクゼン。でもほんとうは若いんですよ。念のため。

上田 勤(十三)

ことし一年また合唱活動に明け暮れそうですね。毎日二時間くらい遅刻です。僕たちの合唱団(名大混声)は、七月に高校訪問する計画を立てていますから、旭丘へも行くかもしれません。楽しみです。

津坂 絢子(十五)

志望の大学はふられてしまつて、しかたなしに市短に通っています。毎日を漫然と、でも何となくあわただしく過ごしています。これから先、遊ぶ予定がいっぱいで、どうなることかとチョッピリ心配。

森 佳子(八)

先日の教員異動で、わが家主の田辺先生がやめられたことや、「ハッカイ」こと渡辺先生がかわられたことなどを知りましたが、毎年毎年私たちが接した先生方が少なくなつていく旭丘を少々さびしく思っております。

一方、今年度の旭丘同窓会報には、われらのヴォーカライズのことが取り上げられ、いささか誇らしい気持ちになり、かつ学校の中は変わつても、私たち同じ舎に学んだというつながりは、いつまでもつづくものだ、と、心あたりのいいものを感じるこのごろです。

加藤幽香子(五)

夫：四月は選挙でだいぶ目を回したようです。
妻：大人の食事が三度、娘の食事が三度、合計六回台所に立つてお鍋と取り組

んでいます。
娘：大した病気もしないでグラマーぶりを発揮しています。髪が伸びて、やっとな女の子らしくなりかけました。

ひとり旅を読んで

金谷 京子

「ひとり旅を絶賛する」の座談会を大変興味深く読みました。そして世の中に私と同じようなことを考え実行している人のいることを知りうれしくなりました。

観光バスに乗らないことを原則として旅行書をたよりに一ヶ月ほどかかってたてた計画をもとに、真夏の京都を思う存分歩きまわって、大満足で帰って来ました。でも大分疲れたのでしよう。帰省後三、四日は夜となく昼となく眠り続けて家族を驚かせました。

旅は計画の楽しさ五〇%、行っている時の楽しさ二〇%、思い出三〇%と座談会で話された清川さんに私も同感です。

―雑誌「旅」五月号、汽笛欄より―

十三期生の会ひらく

会名は「どうしよう会」？

前々から、十三期生のあちこちより、皆の顔が見たい、という声を耳にしているの、いくら何でもこの辺で…というわけで、四月十四日午後四時半、大津橋「初寿司」に集まることになった。四時半までに来たのは、予想したとおり少なくて、たった三人。中区役所にお勤めの力石さん、着物姿の志水さん、そして幹事の林君である。それでも五時すぎには十一人になった。部屋の戸が開くたびに皆歓声をあげて歓迎。その名は安田君、川村さん、藤野さん、岡島君、小島さん、水野さん、上田君、大島さんである。

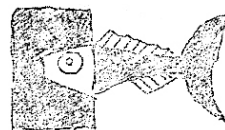
ビール十本を前にして、お嬢様方がずつと多いから、十本ともカラにするのは大へんだなと思っていたが、意外と飲める人多そう。Fさんいわく「でも女の人の酔っ払ったの、見ちゃいられないじゃない？」まあ、あれで相当セーブしていたんでしよう。

勝手にわいわいしているうちに、やっぱり音楽部時代の話を皆でし出す。それじゃAKCのテーマ・ミュージック「サリマライズ」を歌おうか、ということになった。三年間も歌わなかったのに、さ

すがは音楽部。皆はつきりと覚えていて、みごとにハーモニー。隣の部屋のバン声とはチトわけの違うアカデミックな感じ。その次は校歌（こちらの方は二番を「明らけく清きひつぎのごとく」とやったのがいた）。あんな歌やった、こんなのもやった、と当時を思い出して、しばらく感慨にひたっていた。

そのうち一番早く結婚した者と一番おそく結婚した者に賞品を出す、という話に落ちつくべくして落ちついた。Oさんいわく、「二番は来年の秋ね」一同いわく「うわっ、それは知らなかった。おめでとう……」当人はキョトン。何をいつてもこの調子では、うかうか話もできない。会も終わりに近づき、われわれも十二期生に負けるなど、今後定期的に会を催すことにしたが、会の名をつけるので一悶着。皆「どうしよう」「どうしよう」というばかりなので、「どうしよう会」にしようかというのが多数（決定ではない）。もう少しスマートなのはないかな？ 九時前に「初寿司」を出て、今度は「ヅカ」でダベって、十時ごろ解散した。

修学 旅行記



渡瀬 陽子

私は、三月九日から十二日まで、第一班として中国・四国地方の修学旅行に行っていました。もう何年も前に旭丘を卒業された方も、ついこの前の三月一日に「ほたるの光」を歌ってお別れした方も、これを読んで楽しかった旭丘生活のことを思い出していたら、と思ひまして筆をとりました。

汽車に乗りましたのが九日の朝八時。汽車に乗ると、皆はずぐトランプを始めます。なにしろ修学旅行の楽しみの中に「トランプをすること」がはいっているんですものね。宮島口まで九時間のうち八時間ぐらいがトランプです。あとの一時間で昼食やお菓子を食べるんです。だから、「今、どの辺なの」「岡山よ」「あら、もう神戸すぎてしまったの。短いわね」というぐあいです。でも、トランプをしながら見た関ヶ原付

近の残雪がとてもすばらしかったです。遠くから見ると薄い灰色をしていて、近づくにつれて雪の中に立っている木々が見えてくるんです。思わず「すばらしいわね」って叫んでしまいました。残念ながら協賛の声は聞こえませんでした。感覚の相違とかいうのだそうです。途中から雨が降り出し、京都を過ぎたところから雪にかわって降りつづけていました。

こうして宮島口には五時半ごろに着き、船で宮島に渡りました。またこちらではしとしとと雨が降りつづいていました。雨の中に色が吸収された視界に、ぼおつと下半身がかすんで立っている厳島神社の大鳥居。翌朝までこれが朱色をしているなんて、全然想像もつきませんでした。十日は厳島神社を見学して、広島へ向いました。広島では平和記念館。心の中から消してしまいたいほど残酷なものでした。

ここから尾道へ行き、尾道から船で三時間、多度津へ渡りました。この船の間もずうっと細い雨に降られていましたから、船室の中でトランプをしたり、外へ出て写真をとったりしていました。デッキにもたれて、船首のわけてゆく波頭をみつめているうちに、ふと旅愁を感じました。

多度津から屋島へのバスの中では、私

たちのクラスは歌が好きな人ばかりなので、ガイドさんの説明も聞かず、後の方では歌いだす始末。ついにガイドさんはさじをなげて、「マイクを回しますから、どうぞお歌いください」。真っ暗になって屋島の熔岩台地が眼前に迫るまで、歌い続けていました。途中、バスの窓から塩田を見ましたが、がっかり。もっと純白で清潔なものと思っていましたのに、こげ茶色の砂とワラでは幻滅を感じました。

ここでは男子と女子と旅館が別々。しかも寒いし疲れているからという理由でとじ込められたまま。私たち女子の方には事務の田辺さんがみえただけです。で、二時ごろまでトランプをして、ひどい、ひどいと怒っていました。翌日、先生に注意されたのはいうまでもありません。

翌朝は今までと違ってとても良い天気。久方ぶりの太陽がまぶしいほどでした。屋島では眼下の島や海をながめながら、与一や平家の話聞き、「空飛ぶ円盤」を投げて喜んでいました。

またバスで、例のごとく歌を歌いながら栗林公園へ行きました。ここは変わった形の木ばかりで作られた庭園。あまりにも人工的すぎて木がかわいそうなくらい。おみやげを売っている商工奨励館は

良いものがいっぱいあり、私たちが山のように買って買うので、店の人もてくてこまい。ついにセルフサービスで、自分で包んで代金を置いてくるというありさまでした。

こうして、また高松港から船で土庄港へ。このとき、船が出るまで三十分くらいあるからといって、昼食のちらしずしを分けてくださいました。でも、そのすっぱかったこと。赤痢予防でしようけれども、食べられる程度にしてほしいものです。しかし、これでも全部食べてしまった人がいるんですからね。

やつと船に乗ったと思うと、ガイドさんがテープを投げてくださるので、二百名近くが、皆片側に寄ってしまい、ボーイさんは大あわてで、「船が傾きますから真ん中へ寄ってください」と叫び回っていました。しかし、沈没もしないで、無事小豆島へ着きました。

小豆島では、バスに乗ったと思うとすぐ降りて、景色を見て、また乗るといふふうでしたので、睡眠不足の生徒たちが「もう降りなくていいから、このまま行ってください。寝る暇もない」と怒り出す始末。でもめったに寝られないのです。もし目をとじれば、そのとたんにパチリ。私も、人が寝ている

写真を撮りづいぶん集めました。南風台では下の方まで降りていって、海に石を投げていくつ続いて飛ぶかしらと、幼いころの遊びを思い出して、やったりしました。オリーブの木を見ただけで実はついていませんでした。

この旅館は学生に対する差別がはなはだしかったんです。スリッパをはいてはいけない、ゲタをはいてはいけないって。小豆島ではコンパをするはずだったんですけれど、女子が十人しかいないといろいろ問題も多く、ついにもめだして討論になってしまいました。八戒さんのおっしゃるには、私たちのクラスにはこういう討論が必要だったんだそうですけど、副会長としては、せっかく楽しい修学旅行なのにと、クラスの人には悪かった気がしていました。おかげで、この問題を女子だけで話し合ったりして、やはり三時ごろまで眠られず、ついに三日間で睡眠時間十三時間余りという記録を立てて帰ってきました。もちろん、バス、船、汽車の中でも目はぱっちりといっていましたし、頭もさえていました。この夜はとても寒く、上下一枚ずつの薄いおふとんで、セーターも着て寝たんですけれど、寒かったこと。できるだけ小ちゃくなって寝ていました。

朝起きると、また雨が降っています。「屋島と小豆島がお天気だったんだから、まだ君たちは運が良かったよ。二班を見てごらん」と先生になだめられて、バスに乗りました。また船に三時間ぐらい乗り、ついに本州に帰りました。この船の中では、昨日のコンパをやりなおそうというので、狭い船室にぎゅうぎゅうにすわり、二時間ぐらい皆で合唱をしました。

こうして姫路に着き、雨の中を姫路城見学。中にはいることは、許されず、ただ廊下だけ歩けるといっただけで、あとは外を回りました。白鷺城という名にふさわしく、外から見たお城のきれいなこと。残念ながら名古屋城とは比べものになりませんでした。

ここでは一生の大失敗をしてしまいました。雨の中、カサをさして親友と歩いていると、前をわがクラスのたいへんりっぱな紳士が二人、カサもささずに歩いていきます。雨の中のことで、二人ともダスターコートを着ています。そして後にはベルトが結ばれています。そこで、ふだんはおとなしい私もついにいたずら心が出て、親友と相談の結果、まず一人のベルトを引っぱりました。「アッ、だめじゃないか」と笑って無事通過。もう一人の、友だちがやられるのを笑っていた方

へ(まさかじぶんもやられるとは思っていないのですましています)手をとばして引っぱったとたん、「アッ、ごめんなさい」ベルト通しが切れてしまったんです。二人のコートは製造が違っていたんです。その人は「いいよ、いいよ」と言ってくれましたが、悪くて悪くてどうしていいかわからなくて、バスの中で、姫路駅へ着くまでの四、五分で一生懸命縫い付けました。いつもおとなしい私が、このあと一時間くらいはほんとうに静かだったんです。学校でこのことを聞いた友人が「だからあのときワッちゃん静かだったのね」ですって。だれでも思いがけないはずらをすれば静かになりますね。こうして、おとなしいまま汽車で大阪へ。

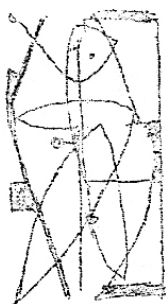
大阪駅では下の通路で二時間も待たされました。知人が会いに来た人は外へ行ってもいいんですけれど、あとの人は残りなさいというわけ。ある悪い男生徒が、友だちのおばさんに頼んで、入場券を十枚買ってもらいました。そうしてうまく外へ出ようと考えましたが、やはり旭丘の学生、思いとどまりました。

大阪から名古屋までの短かったこと。二時間半では、あつという間について

しまいます。汽車の中はまたトランプ。でも私は、まだいたずらが身にしてみてもしましたので、ナポレオンをしていても全精神を打ち込むことができませんので、人のやっているポーカールを見ていました。見ていることも楽しかったんですもの。他人から見れば、なんだ、つまらないことをしているな、と思えるらしく、「どうしてナポレオンをしないの」と再三誘われて困ってしまいました。こうして、ついに名古屋に八時半に着きました。

すばらしく楽しい旅行でした。駆け足旅行でしたけれども、未知の土地へ行つた喜びと、美しい景色。厳島神社。小豆島や瀬戸内海の碧色の海。あの海の色をおみやげにできたらどんなにすばらしかったでしょう。思い出深い最後の修学旅行でしたけれど、これからの良い教訓となり、心の糧となってくれると思います。

(了)



四〇〇字コーナー 投稿歓迎

レコード・ライブラリー

四〇〇字コーナー

ある人に「あなたの自慢のレコードは？」と聞かれて、はてどれだろうと考えてみましたけど、結局「むちゃくちゃコレクションで、自慢するようなのは一枚もありませんよ」と答えました。

しかし変な気分でした。七十枚近くのLPの中で、これはというのはい枚もないのか？ 一体オレは何が一番好きなんだ？ いまさら考えるのもおかしいようなことを考えてみました。しかし結局はつきりしませんでした。

そこで逆に一番何がきらいなんだろうと考えました。しかし、これもいいてきらないものが探し出せず、結論は、そんなしつめらしいことを考えても何の得にもならないから、何でもじゃんじゃん買って、じゃんじゃんきこうということになりました。

参考までに、ぼくの好きな演奏家は、ベーム、ミュンヒンガー、ホロヴィッツ、ギレリス、コーガン、シンパル、シュトライヒ、ビョルリンクなどです。

(森本 進)

縁側の猫Λ2V

新入団員の勧誘は…

桜井茂徳

いまだにトラクターのキャタピラの跡消えやらぬ、そして殺伐の一語で表現できる赤土と白いコンクリートのビルの集まったわれわれ名古屋大学にも新学期はやってくる。まずは入学式、そして先輩連中（今年からのものいる）は、冬眠しすぎた熊のような顔をして、「長い休みも終わったが、もう一ヶ月くらい休みたい」などどつぶやきながら、サークルの勧誘をする。

新入生は一見してわかる。何か声高にグループを作っている者、一人ぼんやりしているもの、そして学生服をきゆうくつそうに着ているもの。またあのボタンがいけない。ピカリピカリと光る。そして襟章もまたピカリピカリ。「私は新入生」と皆に呼びかけているようだ。そして中にはお母さんにつきそってもらっている人もある。ところどころには角帽も見える。なぜだか知らないが、名大に関してはだれもかぶらない。口の悪い連中が言うのだが「角帽をかぶるのは馬術部か応援団だ」た

しかにそのとおりなのだから。そしてこれから一週間過ぎると、あまり新入生らしさは目にしなくなる。しかし。あの校舎の中をうろうろ、きよろきよろしているのは、やはりすぐにわかる。こんな連中でも高校では先輩と呼ばれてきたのだから。もっともわれわれも同じことだが。それから今年の女性はず年よりも（先輩の話によると）質がよくなったのと。私の目にもぐつと晴れやかな色に見える。

こんな一、二週間くらいが、我々名大混声のいちばん忙しいとき。今年は女性の増加だ！何だかんだと皆さわぐ。合唱人口一〇％で、より控えめに見ても女性二十人はむつかしいと、アッチャンこと上田勤君は胸をグツと張る。やはり毎年こんなことでわれわれサークルも息づきはじめる。

新入生と初練習で顔ならぬ声をあわせて、あまりのよさにタジタジとなり、張り上げたドラ声も思わずひっこむこともしばしば。こんなチョウ花よの扱いも一ヶ月続くか続かずでオッポリ出されたことを思い出しても、何かくすぐつたいような気がしてならない。しかし今は大切な一年生。どうか皆残ってくれよと、わがままも何のその。ごむりごもつとも

のもつばら低姿勢。

しかし勧誘する段になると、これまた一苦労。「アノー、混声に入団してくれませんか？」やつとこの小さな心の臓にムチ打ちながらこれだけ言っても、答える側はいい気なもの。「ケッコウ」なんてニワトリみたいなこと言って、さつさとしてしまふ連中。「ほかに予約がありますから」というこれはデートに断られた型、「まにあってます」まるつきりクズ屋。「もう三度目なんですよ」なるほどグツとイカスお嬢さん。むりもない、男性ならば勧誘したろうな。

われわれは団員常時六十人をめざして、このように努力するのだが、なかなかうまくゆかないものである。とくに混声の名のごとく、女声が必要である。また副産物？として男性もかなりの数、入団した。男声合唱もできるだろう。

とにもかくにも今は忙しいとき。皆さんがこれをお読みになつてるとき、新入生のお供をして、わたしはどこかのCoffee Room でまじめな顔で恋愛論の合いづちでも打っていることだろう。ああねむい。あしたはドイツ語が二つあったけなあ……。ニヤンともしかたない。

室生寺・赤目四十八滝・春の一泊旅行報告記

A K C ヴォーカライズ春の週末旅行は四月六、七両日、室生寺・赤目四十八滝のコースで行なわれ、七人が参加した。昨年の浜名湖旅行よりは一人ふえたので、毎年この割でいけば五十年後には……という遠大な声も出た。

第一日は快晴、第二日は朝からしとしとと雨が降る「お天気」かげんに、何度も行き先変更の討論をした末、結局予定どおりのコースをたどった。

この旅を通じて、参加者ひとりひとりが互いに認識し合い、つながりを深めることができたのが最大の収穫……というのが、みんなの出した結論だった。

以下はその報告記である。

内藤 毅 (十五)	岡島 孝 (十三)	川村 朋子 (十三)	藤野 絢子 (十三)	安田 軍二 (十三)	横橋 貞雄 (十二)	浅井 幸三 (五)
-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	-----------

① 四月六日昼・快晴

バス車内でタコ焼き

かわむら・ともこ

とてもむし暑い土曜の午後。集まったのは七人で、昨年の館山寺行とほぼ同じメンバーである。鈴木茂さんの見送りを受けて、むし風呂並みの近鉄急行で出発。車中、同期のY君がやたらスパスパ煙をはくので「けしからん」とばかり、ケンカを売ろうと思ったら、彼の辞書の禁の字はいつのまにか勤に改正されたこと、すばやく身をかかわされた。とにかく、よくいえば口の器用な、率直にいつて口の悪いのは、ヴォーカライズ会員の一番の長所らしい。

車外は菜の花の黄色と、もうだいぶ大きくなった麦の緑が、陽に映えてとても美しい。道中、近鉄は「中川」と「名張」で乗り換える。一枚の切符でこんなにも乗れるのかと、うれしそうな顔、顔、顔……奈良県にはいつて、室生口大野という静かな駅で下車する。

駅でバスを待つ間、親分とお若いのが、目ざとく「たこ焼き」の小さなお店を見つけ、勇んで行く。何でも名古屋より安

いとか。乗り物でおなかのすいた人ばかりなので、みなごきげん……なのはいいけど、バスは発車。しかたなく室生寺まで「たこ焼き騒動」を展開することになりにつけり。好物を前にしては、みなバスの中であろうがどこであろうが、あたりの人がどんな顔をしていようが、においが漂おうが、おかまいなし。ただ、焼きたてで熱いのと、いなかの道で相当揺れるため、口に入れるのがなかなか一苦労なだけ。ワイワイガヤガヤ、手に手に楊枝を持って大笑い。(なんて行儀の悪い……なんて思わないでくださいネ。車掌さん、ニヤニヤして黙認してくれはりましたもの) いなかのバスだからこんなこともできたのでしょね(いくらアツクテモ市バスじゃねエ……)。とにかく最高においしかったです。

室生寺前でバスを降り……ここでN君、バスにカサを忘れ危機一髪セーフという事件あり(カサを忘れるほど、この日は天気がよかったということを強調したいので、念のため)。

こうして、また一段と静かで質素な室生村に着く。室生川の流れが聞こえるだけで、人かずもまばら。そろそろ夕暮れとなつて気分爽快。関西なまりの旅館のおばさんに迎えられて、橋本屋にはいる。

② 四月六日夕・快晴

奥の院へは六百六十段

あさい・こうぞう

午後四時半、「女人高野室生寺」の門をくぐる。「女人高野」と書いてあるから、ここは女の人専門の寺じゃないかとひがむ男性もいたが、とにかく夕暮れは近い。残念ですが門限で…などといわれないうちに、大枚五十円を払って参観券（三枚つづり）を買う。

三枚の内わけは「薬師堂」「金堂」「本堂」の国宝拝観券というわけ。しかも美声で落ち着きあるガイド坊つきというサービスもある。夕やけ迫る刻限も近く、堂内はどこも暗かった。そして、たしかに国宝のいくつかにはお目にかかったけれど、あるものは大阪の某デパートへ出かせぎ中であつたり、あるいは倉庫内でおやすみになっていて年に一日しか見る機会がなかったり、また東京や大阪の博物館へ分家していったものもあつたりで、国宝級ともなるとアルバイトやら何やらで大いに忙しいとみえる。

国じゅうのどこにも足跡と遺作があ

るスーパーマン、弘法大師が一夜のうちに造ったという日本一小さな五重塔（鶏がトキを告げないうちは夜だという勝手なりくつをつけて、オンドリを飼わなかったのだそうだ）の横手を登ると「奥の院」がある。人品いやしからぬ一見紳士ふうの見知らぬおじさんが、「すぐ近くですよ。いいところですから、ぜひ行つてらっしゃい」とあいきょうよく言う口車に乗った面々は、テクテクコツコツと六百六十余の階段を上がつてやつとたどりつき、「ひどいや、仏さまのような顔をしてうそをいうなんて」とこぼすことしきり。しかし、さすがにすばらしいながめだった。太く、そして天高くそびえ立つ杉の木立ち、まだ落ちきらぬ太陽と青く澄んだ空。「いいなあ、ここまで上がったきたかいがあつた」とニッコリ。

やがて六時の鐘が鳴り渡る。あわてて、すでに山門の閉じられた寺の中からはじき出る。メモをとつたり質問したり、つねに研究熱心なS君、仏像や寺にうんちく深く、すぐおみくじを引きたがるG君、お寺や仏像なんて一つ見ればあとはみな一緒と悟りきつているFさん……。思わぬ人が思わぬ面をもつていて、人はみかけによらぬものということ「室生寺」の釈迦如来や菩薩たちはあらためて教えてくれた。

③ 四月六日夜・晴曇

ナポレオンまたナポレオン

ないとう・たけし

旅館へ帰ったのは六時半ごろ、奥の院まで行つた階段のため、みなほんとうに疲れ、特に最年長のA氏は、一段とその色が濃かつたように思われる。部屋に通されて第一声は、「風呂はないか」であつた（言つた人はご想像にまかせろ）。先に食事にすると思つていた私には意外千万。なぜなら、昼より相当歩いたので、早くからみなが空腹を訴えていたから。ともかくも風呂にはいることに決め、女中さんの案内で、野郎からはい。女性も入ろうとしたら、家庭の事情であとまわし。しかたなく、野郎の出るのを待っていた。なにしろ、ここの風呂は、普通の家のと同じように二人で満員。怒つて旅館を変えようにも、室生寺では旅館はこころ軒しか無いのだから、怒りようがない。みな、しかたなくはいった。

夕食は七時半ごろ。ビールを注文して、大学進学、ヴォーカライズの発展を祈つてカンパイ。ぐつと一息に飲み干したとき、Fさん「うまい」と一声。一同その声にビックリ。しかし、なんといつても

強いのはS氏、盛んに飲んでも、いっ
こうに酔いがまわらない。一口飲んで
赤くなった私は少々驚いた（飲んだ量
は内緒）。

そのあと重要な話（別項）、そしてト
ランプと、大体いつも同じコースを
たどる。旭丘名物「ナポレオン」を始
めた。なぜかこの日は、いつも弱い私
が勝ち、ナポレオンの名をほしいまま
にした（ちよつと大ゲサかな）。一度始
めると、あとは同じものばかり、惰性
とでもいうのか、同じものを繰り返し
繰り返した。夜のふけるのも何のそ
の。ナポレオンまたナポレオン。最後
には一ゲーム終わるごとにみな横にな
り一休み。一人が配ってあとは休み。
配り終わると、おもむろに起き上がり
てトランプをとり、またいつものとお
り。なんともはや、もの好き！ 女
性軍がたおれたのが午前二時。それ
でもなお男性軍は強行、ついに四時に
みなおびて寝た。

朝八時起床。少し目を赤くはしてい
たが非常に元気。しかし天気は悪く小
雨。朝食後、バスに乗るまでの間、ま
たトランプ・ナポレオン。最後を飾っ
て私がまたもや勝ち。どうやら、ゆう
べのツキがまだ私についていたらしか
った。十時二十六分、バスに乗る。

④ 四月七日昼・小雨・曇雨

赤目四十八滝 ナスイ アルファ

おかじま・たかし

朝のうち降っていた霧のような雨も今
のところやんでいる。バスの停留所に立
って向こうの山を見上げると、雲が深く
かかって、ちよつと墨絵のようだ。「奥の
院へきよう行ったらすごいだろうな」と
だれかが言ったが、確かに巨大な杉の木
立に霧雨の降っているのは、神秘的もい
いところだろうと思われる。

赤目口駅で電車を降りた。日曜だとい
うのに駅の前は閑散としている。天気が
はつきりしないせいかもしれない。そこ
からバスでどれぐらい乗ったか覚えてい
ないが、赤目滝まで話をしていううちに
着いてしまった。

これから一番奥の滝まで行つて帰つて
くると三時間かかるという。全部回れな
くてもいいから、まず歩け歩け。道は曲
がりくねって上ったり下ったりしている
が、コンクリートでちよつとした舗装が
してあるので歩きにくいことはない。天
気も曇つてはいるが、どうにかもちこた
えそうな気がした。ところが、これが少々
計算違いであった。

途中のあちこちでは若い人たちのグル
ープが集まって火を起こし、飯ごうで昼
食のしたくをしていた。僕たちはただ
黙々と歩くだけで、味気ない気もしない
ではなかったが、キヨロキヨロしない
歩き続けた。しばらく行くと「これより
先には売店はありません」と立て札があ
った。雨はまだ降っていないが「そ
ろそろ引き返そうか」との意見が出た。
皆で考えたが、せっかく来たことだし、
休憩の場所もないからもうしばらく行っ
てみようということになって、また出発
した。

雨が降り出したのは、それからすぐだ
ったと思う。雨といつても、霧みたいで、
いわゆる春雨で、急いで雨宿りしなくて
はならないものではなかった。それから
引き返そうか引き返そうかと何度も言い
乍、ずいぶん歩いてしまった。結局引き
返した荷担の滝は一番奥の滝まであと二
つ三つというところだった。

帰りは早かった。途中大きな岩のかげ
で休憩し、持っていた少しばかりの食糧
を片づけた。そこからあとは、ろくろく
景色も見えないでスタコラ歩いた。いつし
か前の方の人たちは歩きながらシリ取り
歌合戦を始めていた。

⑤ 四月七日夕・雨

名古屋でも歩こう

ふじの・あやこ

赤目の駅に着いたところには本格的な雨で、一周できなかったことはまことに残念でしたが、やはりよかつたと思いました。

電車に乗るまでの二十分余。大して長くも感じないはずのこの時間は。とにかく寒くて寒くてガタガタふるえ通し。しかし現在までカゼの様子全くないところをみますと、思ったより私の身体は丈夫らしいです。

待ちに待った(?) 電車に乗れば、まるで暖房してあるような暖かさでした。中川で乗り換え、ここから名古屋までは立ちんぼ。でも不思議に疲れは感じませんでした(二、三日後のえらかつたこと)。立っついては何もできないので、もっぱらお口の運動です。得意のナゾナゾで、ナポレオンの大敵内藤君に仇をとってやろうと
 ・国会議事堂をハダシで歩いた人は?
 ・ブタとウマがけんかしました。どちらが勝ちました?
 ・トンネルに汽車がはいりました。真

ん中からはいらなくねってしまいました。なぜ?

・ナポレオンが自分の兵隊に「後にひけ」といったのに命令どおり動かなかったのは? etc. : しかし、この問答でもやはり半分くらいは正解を出されて、さすがだなとあきらめました。

五時半過ぎに名古屋に到着。再びホコリの町(?)に戻ってきました。雨がけづついて、都会らしいロマンチックなふんいきがいつぱい。まず人の多いのにびつくり。わずか二日離れただけなのに。六人がスムーズに進行することは実に難儀でした。駅の地下をぐるぐると全く同じところを回ったあげく、栄町まで来てしまいました。どうせはいるならと都ホテルへスイスイ。文字どおり棒になった足を何とか休めることができました。高級レストランでの食事はさぞおもしろうと期待したのに、あの室生寺の宿でいただいたものとは比べものになりませんでした。「あのタクワンもう一度食べたい。タクワン(たくさん)タクワン食べたいな」

食事を終えて一息ついて、そこを出たのが七時すぎ。外は相変わらず霧雨でぬれていました。この前で解散して、ナポレオン皇帝と相合傘でバスに乗りわが家に帰りました。

△番外V その1

室生寺での旋風

まえがき

室生寺一泊旅行で思わぬ旋風が起こった。それは宿で夕食をとり終わったときだった。すでに一部の委員へは意思表示されていたという「浅井幸三君ヴォーカライズを脱退」のニュースが、一般会員段階へ伝達されたことに始まる。

たちまちにして座はカンカンガクガクの大論争。「脱退に賛成」「いや反対だ」「逃避的だ」「ヴォーカライズのためには前進の足がかりになる」とばかりに賛否両論が飛び出し、中にはあくまでも「やめるな」と食いつ下がり、つるし上げる勇敢なる士もあつた。しかし、この結論は一夜にして出すことは無理。みんながゆっくり考えて、「室生寺の旅報告記」と同時に、一言ずつ意見を書いて出そうということを持ち越された。

以下は、最も果敢に反対論をぶちまけた横橋君を代表討論者に、各メンバーのそれぞれの意見である。

△番外V その2

浅井さん退会問題

よこはし・さだお

ポットン、ポットン：「寝耳に水」、驚きとあきれ、あいた口がふさがらない。あとは憤りがこみ上げ、食いついてやった。私にとっては、ヴォーカライズの創始者、なみなみならぬ貢献者として、浅井さんがヴォーカライズを去ることなど考えてもみなかったのである。それが突然、夕食を食い終わって、体内の血液の大部分が胃に集中しバリバリ消化しようとしたやさきこれだ。オタンコナスメ！ 欠乏していた頭部の赤い液体が一時に増大していくのを感じた。なぜそうなったかはわからない。しかし、そのときは無性に腹が立ったのである。

浅井氏いわく「僕がヴォーカライズに残る限り、会員がすべて僕にたよる仮に役職になく形式的な会員であつても、実質的には万年会長にとどまる。ここでヴォーカライズの機構刷新を願うには、是が非でも僕が退かないといけない。ただ、僕がだれよりもヴォー

カライズを愛し、ヴォーカライズの発展を願っていることはわかってもらいたい！」と。

確かに今のヴォーカライズは、浅井カイチョウを軸とした、ばくぜんとした球体になっっている。これは、現に副会長であつても、実質的にはすべての責任、すべての仕事が終わ局的に一任されており、それを取りまくものはいつも形を変えてアメーバのごとく不明確に動いている。

もちろんここで気をつけなければならぬことは、浅井氏個人への信頼と、ヴォーカライズの会長職務とを混同してはいけない。つまり、浅井さん個人としてみれば、どんな人からでも、信頼尊敬されるのはうれしに違いない。もつとも、それが時間的、経済的に少なからず負担になっっているのを見過ごしてはならないのだが、人間である以上、相手が誠実に信頼をおいてたずねた場合、無理に追いつ返しはしまい。いな、それを喜んでしかるべきだ。そこに当然犠牲も生まれてこよう。しかし相手が、もし自分の職務を遂行せず、ただ単に責任の転嫁を企てるためだとしたら：おそろく途中でいや気がさす。

数十枚のはがきをコーラス用に同封し、その返送率が二割程度と来ちゃ阿、いかに心臓にカビがはえていてもギャフンと

するだろう。でも、あの印刷されたはがきは、一体どこに葬り去られるのだろう？ サンドペーパーで削り取って、有効にムダなく使用することもできよう。またマジックで印刷してある部分を消して、デザインよろしく差出人のセンスをいかんなく発揮することもできる。これらは、いずれも知能犯だ。大部分は、いつか再び見出されたときに、フスマのシンとしてあえない最期を遂げたり、そのまま直通でクズカゴ中の一片の紙切れと化すのである。実を言うと、偉そうなことをぬかしているこの当人だって、返送を一〇〇％実行しているとは言い難い。

一月も二月もたつて、偶然日の目を見たはがきを手にとって「あつ、イケネエ！」と思うのだ。おのれのオヤジ様が郵政に勤めているからといって、かかるミミツチイことを言っているのではない。何としてももったいないことである。個人個人のはがきを出す力が、ヴォーカライズの正常発刊につながり、委員諸君の奮起を促すとすれば、微々たりといえ軽視できない。これが浅井氏引退の一原因だとすればなおさらである。

各委員、会員がムダな時間を持ち合わせているものではないが、編集委員は、特に多忙な、すき間のない時間をやりくりしていかなくてはならない。浅井会長

の存在当時の毎月の発行は、驚異的だというほかはない。不定期な仕事の中からヴォーカライズのための時間を捻出していくのは、よほどの忍耐力と合理性が必要である。編集委員が自分たちの手に負えないからといって、それを浅井さんに横流ししては、せっかくの分担制の意義が消えてしまう：少しでも委員の負担を柔らげ、ヴォーカライズの真の意味を浸透させる…。これがだ。会員の中のオンプ的性格が委員にもあつて何ら不思議ではないが、そこは能力ある者として選出された以上、十分に自覚していただかなければならない。公選で選挙された委員を攻撃することは不本意とするところだが、ときどき出る委員の自主性の欠如と、だれかが出してくれるといった安易な妥協とに、ひどく腹立たしさを覚えることがある。かといって、会員（おのれをも含めて）が、めんどくさいことはすべて委員の仕事と、単純素朴に決めてしまつては、委員がかわいそうだし、無責任すぎる。現在の分担制が最良の方法だとは思っていないが、今のところ他に方法が見つからない。しかるに、現在の制度をいかに有効に使うかが問題である。

室生寺でも出たことだが、次号の発

行責任者を明記してはどうか？ の意見には賛成。委員が激励され、努力すれば欠刊、休刊がなくなり、よい調子！ではないか。もちろん、これは委員に対する一般の態度であり、いくぶん一方通行である。会員全体の会に対する意向、投稿、もつと積極的な盛り上がりが大切である。しかし、現段階で次号発行者の記名は、問い合わせが浅井会長宅に飛び込んだり、紋切り型の苦情で浅井さんをノイローゼにしたりする弊害をいくぶん緩和できるのではあるまいか。

最後に、藤野嬢の言を借りるなら、「やめるのは最悪の場合。引退などはもつてのほか」。私もそう思う。ここで考えよう、浅井さんの引退理由を。プライバシーの侵害、経済的、健康上の負担。これらを打開するには、分担制を確立すれば、よい意味で浅井さんを会に食いとめておくことができると思うのだが…。浅井氏個人のヴォーカライズではなく、広くわれわれのヴォーカライズという建て前からすれば、よき貢献者をなくすことは、ひどく惜しいし、会としても大きな損失である。浅井さんの性格からいって、おそらく引退表明を出すまでにはかなり熟考を重ね、その頂点に達してのことだと思う。そこには感情的なものはない。（もしそれが動いているとしたら今までヴォー

カライズとともに生きたことが不自然だから）われわれとしては、引退の内容をひとつ一つ丹念に打破し、打開していくのではないか。昨年、浅井記で、「老兵は死なず」とある。

△番外Ⅴ その3

私たちも一言：

浅井さんの退会をめぐる

もう一度考えたら？

どうしても賛成はできません

何もしない私には、お話を伺って、何もうことがありません。でも反対するのは少々勝手なことです。かといって、どうしても賛成することもできない…。ほんとうにむずかしい問題だと思います。

もう幾度も考えられたことでしょうけど、もう一度初めから考えるというのは不可能なものでしょうか。

（藤野 絢子）

僕は賛成します

この機会に一步前進を

ヴォーカライズの機関紙が送られてくると喜んで封を切るくせして、これが発行されるにあたり、一人の人間の生活が少なからず犠牲にされていることも考えず、書くのにそんなに手間のかからないはがきさえ出さず、次のが送られてくるのを（何ヶ月も休刊になっただけでも催促の手紙も出さずに）ただ待っているだけでした。

浅井さんの引退の件ですが、僕の意見としては、もろ手をあげてではありませんが、一応賛成したいと思います。これを機会にヴォーカライズも、もう一步前進できるかもしれないからです。でも重大な転換期です。第二の浅井さんができないとも限らないし、ヴォーカライズが衰退してしまうかもしれないからです。もし、そうなったとしても、だれにも文句は言えないのですが、結局会員一人一人がヴォーカライズをそういうものにしてしまっていたのです。

しかし、僕はそんな悲観的には考えておりません。また新しい委員の選挙がありました、これを機会によく考え

てみるのが、解決に一番の近道だと思うのです。

（岡嶋 孝）

退会には反対

一般会員で残ればよい

浅井さんがヴォーカライズをやめようかと思うという話に、私はびっくりした。日ごろヴォーカライズについて詳しくは存じ上げないが、いろいろ話し合うこの機会を得て、なるほどと思った。今まで七年間、委員制がとられているが、ともすると浅井さんがいないと動けなくなつたヴォーカライズ。根本原因は、会員の不協力（ハガキのこと）とヴォーカライズに対する考えの無責任さだと、誰かが言われたが、私もチクリとくるものがあり恥ずかしい。浅井さんの言われた「ヴォーカライズ」をより進展させるため、そして「僕がいなくてもヴォーカライズは進むはずだ」ということばに、全会員が確信を持ちたい。

ただ、結論として、会員はやめるべきではなく、今回の選挙は特例として浅井さんを除けば…と思う。このくらいの措置をとってもいいじゃんか。

（川村 朋子）

役員にはならなくてもいい

だが、退会には反対

ヴォーカライズの全責任を浅井氏に負わせていたのは、私も認めます。確かに「浅井氏さえいれば」という安易な気持ちで私の心にはあつたと思います。浅井氏が昨年、会長をやめたのに、実質的には何ら変わりがなかったことをみてもよくわかるとおり、浅井氏なくて現在のヴォーカライズはあり得ないでしょう。今、浅井氏がやめられたあと、私を含めた他の会員の奮起で、続くことを私は確信しています。

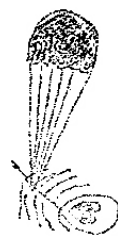
浅井氏の脱退には反対します。会員として残り、こんどの委員選挙には投票できない特例を作っても、浅井氏のこれまでの活躍をみれば、皆様の不満はないと思います。

とにかく、浅井氏が脱退しないよう、皆様の協力をお願いします。

（内藤 毅）

・お断り・ 旅行のさいのメンバーで幹事役の安田軍二君の原稿は、締め切り日とスペースの関係で掲載できませんでした。また皆さんからのご意見を伺う機会がなかったことを、おわびします。

汚れちまった悲しみに…



あさい・こ うぞう

「私の好きな詩」として今月あげさせてもらった中原中也の「汚れちまった悲しみに…」は、あまりにも有名な詩なので、とくにあれこれとつけ加える気持ちはありません。

昭和二十二年夏、私が「かくみ詩集」というつたない作品集を自偏したとき、中学時代からの友人が「生活に根ざさない詩だ」と激しく批判し、この詩をあげて私を追い詰めたものでした。それ以来、何か失敗したり、しだいに汚濁していく自分に気づくたびに、ふとこの「汚れちまった悲しみに…」という一句が、私の頭をかすめるようになったのです。詩とはそういうものであり、詩を読むことによって得られる効用は、つねに人を励まし、見詰めるものなのだと、私は思うのです。

急に詩が読みたくなり、手当たりしだいに詩集を広げては、声を出して読み上げるとき…きつと、私はさびしくなったり、悲しかったりした日であっ

たといえるのです。詩の中にある純粹さ、淘汰された美しさが、傷ついた私を慰めてくれることを知っていたからです。

いま、この詩をあえて取り上げた理由を述べるつもりは、私には決してないのです。ただ、一度でも二度でもいい、この詩を声を出して読んでほしいのです。そして、それで足りなければもう一度繰り返してみてください。なぜ私がこう願うのか、どうして私がこの詩をあげる気になったか…、わかってくださるに違いありません。

――二号に、私は「自分の穴の中へ……」という小文を書きました。

これは、三十七年度副会長の職を退くにあたってのことではありません。「ヴォーカライズを去るにあたって」のお別れのあいさつなのです。不幸にして、私の気持ちに森本君に十分伝わらず、「委員退任の弁」の項にはめ込まれてしまい、会員の皆さまへも私の真意をお伝えできぬ結果になってしまったことを残念に思っています。

あらためてお願いします。もう一度、二号を出して、「ヴォーカライズを去るにあたって」の私のことばを読んでやってください。

――昭和三十年夏、自分が名づけた「ARK ヴォーカライズ」の会計になり、翌年からの公選制実施以来連続六期の会長、昨年度の副会長と、私はつねにヴォーカライズとともに歩んできました。多分に自分を切り刻み、時間的にも健康的にも圧迫された事実を否定しません。けれども、私はそれを悔いてはいないし、むしろよい経験であり、よい勉強であったと感謝しています。

が、しかし、こんな生活がいつまでも続くものとは思えません。かえって、私があることによって、ヴォーカライズがいつまでたっても「浅井幸三とARK ヴォーカライズ」だと評される段階にとどまるのだと痛感したのです。いまは、ヴォーカライズは私がいなくても何の支障もなく進んでいく将来性のある会だと確信しているのです。

私は、しばらく自分を大事にします。理由をどうお取りになろうとかまいませんが、「結婚するんだね」と勘ぐった人もいます。そんなこととも無関係です。私はただ、あまりにもヴォーカライズを愛しすぎました。こんどは自分を愛し、特定の女性を愛する番なのです。汚れちまった悲しみにひたります。

京都徘徊の記

横橋 貞雄



二月のある日、私は古都「京都」をめざす列車の中にいた。いまだ見ず歴史的な都市に大いなる期待をかけて…。

駅前に立ったおのれは、いささか落胆した。予想に反した駅前のこの繁雑さ、無統制な交通網、均整のとれない街並み。車中、動きの鈍い頭脳を無理して回転させ、駅を赤レンガでツタのまきついた荘厳な建物、駅前は広く、整然とした花壇、間隙は芝生で埋まり平安の古都をしのばせるに十分な、ほうふつとした情緒が感じられると思ったのに、はや早々これあなんだ！ そのうちに無性に腹がたってきた。そこできようは、断じて文明の利器を利用せず、もっぱら最も原始的な方法・徒歩でやることに固く心に決したのであった。

東本願寺の前で地図をひろげ進路いかに。烏丸通を北にとり五条に出る。西に曲がって五条通にウイंकを送りながら

堀川五条に出る。また北にとつて二条城めあてに直進。途中、古い家、屋敷の間にこもり茂った幾世紀もの森を見つけると、古い格子窓のある家並みの間を何度もかぎ回ってながめ入る。そこがだれかの口宅であろうと寺神社であろうとシツチャイナイ。すみからすみまで観察に及ぶ（何でも見てやろ！）。これは、京都に残された特権であるようだ。まわりの人も変な目つきをせず、建築家あるいは古都にあこがれをもつ憂国の士ぐらいにしか思わないらしい。その点、見知らぬ人間に対する処世術は要領を得ている。観光都市特有のアパシー（無関心）かな？

僕はモダンな住宅にも住みたいと思うが、一見、遊廓に見える格子戸の家にも強い愛着を覚えるのである。日本人だからナ。

仏光寺の雨どいに感心し、菅神社のサイ銭箱をのぞき込んで（手は入れなかった）いよいよ二条城へと足を進めたのであった。地図で見るとほんのわずか、何だ近くだな。しかしゲンジツは、それほどあまくはなかった。行けども行けども城らしき城閣は姿を見せない。これあ道を間違えたかな？ それでも最初来たところは、足でかせぎ回るに限る。

お腹は背骨と密着するし、雪は散らついてくる。この密着状態が長びくと、ど

んな鈍感な人間でも寒さが身に響く。お！江戸前寿し。かかるところで江戸の空気に触れるとは…。されど、中は閑寂として音一つだにせず。江戸前ならもう少し元気があつてよいはずだが「これ、江戸前ですか？」「ハア、ソウデス」。それまでまがりなりにも話しをしてた板前が、がぜん貝と化した。押し寿しがはいってて、あの活気のなさかげん、多分京都寿しの間違いである。場が白けてきたら、早々退散するに限る。

二条城らしきものは、依然として見えない。京都もなかなか広いな…。街の様子は、どこにでもある中級商店街。一本中の道にはいると、古い歴史がそのまま生きているのに、表は何の変哲もない商店の列。近代商法の共通性なのか？

全貌を現わした皇居は、さすがに圧倒する。厚くたれこめた鉛の雲を背景にした城は、荘重で薄気味悪いすごみさえ感じさせる。中にはいるべきかいなかを迷ってみたが、雪はいっそうひどくなってきた。しかたなく城を一周してオサラバ。三条大通を東に向かい、手あたり次第に見学することにする。

京染の店を見つけて、本場の染屋と勢い込んでのぞいたら、一緒に洗たく物が干してあるのに度肝を抜かれ、「なんだい、これが由緒ある染屋の正体か！」…。

京都名物、いまいずこ。

本能寺は、信長が非業の死を遂げた寺であり、コンガリ焼けると興味を持つていったのに、あまりに整いすぎて真実味なく、味気ない。しかも、節分のあとで、ハトが砂利の間の豆を無心につつついているのを見て、だまされたと思う、若き血潮の逆流はトサカにまで達し、石をぶつけてやった（シカし、ヒューマニズムにたけた私のこと、わざとそらしてやったことは言うまでもない）。

そこから三条大橋までテクテクやって、橋の上に立ちどまり、まわりを歩く人を観察する。天然記念物と化した舞妓さんにお目にかかりたいと、少なからず期待をかけていったのである。然し、そんな二本足は、一人として見当たらない。さては「予知して戒厳令でもしいたか？」「祇園まで行かぬとだめかな？」こんなことなら、栄町の交差点でアホみたような顔して立ってた方が、よほど気がきいている。舞妓出勤のシーズン・オフだったのかもしれない。

さして変わったこともない。ただ、どこでもチンピラふうのアンチャンがとぐろをまいていいる。京都弁は、どうもなまぬるくていけない。女の人が話

をしていると、ああ京都だ、情緒がある、歴史の遺産だ、となるのに、男、特にヤクザがダベるのには、ワサビがきかなくて困る。かといつて、名古屋人（びと）も、決して「ホットキヤ〜ヨ！」なんて話してはいかぬ。国籍を疑われてもしかたがない。こうしてみると、男という動物、言語上著しい制限を受けていることになる。いくら回ってもきりがない。ついでお腹もすいてきた。

駅で考えました。京都とは何だ？ 十何世紀かにわたる日本の中心だ。そして名所の多いところ。街の人たちは、ただ観光という名のもとにそれらの古跡に寄生しているにすぎない。しかも新しい、斬新な建築物、道路等、大いに近代文明も吸収しつつある。二十世紀後半の京都は、今までの寄生状態から脱皮して、新しい京都に生まれ代わる過渡的症状を呈している。そして古い京都は、一時的収入源たる一部の神社、仏閣を除いて、消え去ろうとしている。六大都市の一角、人口四番目の都市である以上、必ずや名に恥じない真の文明都市に、発展していくだろう。しかし、いかに進歩しても、古い歴史の中の京都であってもらいたい。もちろん、一応有名とされているところには立ち入らず、ただ裏街を表面的に五、六時間、徘徊したにすぎないのだから

ら、京都を論ずるのは早計かもしれない。が、京都の現実の片鱗に、どこか触れたような気がしたのであった。
今度、行きたくなったときは、交通網を大いに駆使して回ってみるつもりでいる。

京都の真髄に触れるように
ほんとに好きな京都になるように。

じつにピタリ

リストはいろいろな女から夢中になられたが、ダアグウル夫「人」という女流作家ともむりやり同棲させられてしまった。彼女は自分とリストの話にロマンティックな色をつけて小説に書き上げ、リストに題をつけてくれと頼んだ。原稿を読み終わったリストは、その表紙にさらさらと書いた。

「高慢と嘘」

絶えず女中難だったベートーヴェンは自炊を始めた。友人たちが「何を食べているのやら」とからかうと、「まあ一度食べに来たまえ」と晩飯に招待した。さんざん待たされた後に出されたものは、みなこげているか生煮えだった。しかし主人公はうまいと一人ですべて全部食べてしまった。

唯我独尊

痛感する人間関係のこと

― 私の仕事を通じて ―

足立 孝子

ここ数日、梅雨期のような不順な天候が続きますが、会員の皆様には格別のおさわりもなくお越しのことと存じます。生来の筆不精でごぶさたを重ね、皆様にはご迷惑ばかりおかけしてまいりました。久方ぶりにペンをとりますと、何だか気はずかしいような 생각이いたします。

好きで選んだこの道も、年月が経つにつれ人間関係の複雑さ、むずかしさが身にしみて感ぜられるきょうこのごろです。

昨年の暮れの十六日に、私たちの恩師、都築先生の奥様が永眠されました。折り、幸か不幸か私が夜勤をいたしており、危篤状態にはいられてから一週間ほど看護させていただき、安らかに息をひきとられたときもおそばで脈をとらせていただきました。長いようで短かった日々を、先生はじめご家族のお悲しみは私の胸に直接反映してまいりました。

現在の社会でも「嫁と姑」という人間関係で幾多の問題点を残しております。

す今日、先生のご家族では実に美しい人と人とのつながりを実現していただき、心あたたまる日常生活を幾度か見せていただきました。

私たちの脳裏から離れない「嫁と姑」という観念をみごとに打ち破ってください。つたのもお二人でした。私たちの詰所では、先生はご養子ではないのかしらなどとうわさしたほです。

いつも奥様は義母様（姑）を尊び、適当に甘え、また義母様は若い人々の生活に理解と愛情をそそぎ、常に若い心根を植えて吸収し、二十数回登山もしましたなど元気に話しかけられ、その心意気はお年とはおもえないほでした。ご病人をいつも明るく励まされ、心ゆくまでご看病されましたお姿が、今でもはっきりと思い出されます。お互いの努力が実つてこそ、他人もوراむお二人方の関係が生まれたものと信じます。

都築先生にお会いしておりますと、人の和を実直に感じますのも、ごりっぱなご尊母様のお人柄にあるのではないのかしらと思われました。

いづれ皆様も遠い将来には姑の立場、また近いうちに嫁の立場となられる日、私の悪文がいくらかでもお役に立てばと存じます。

話は変わりますが、皆様も新聞等でご存知かと思いますが、国立病院は飛び降り自殺の名所になるのではないかと心配いたしております。私の勤務いたしております西六階は、悪性腫瘍がほとんどで、不治の病の方々ばかりです。本人には病名を知らせなくても、長期療養で経過が思わしくなければ自然に悟り、自ら生命を断とうと試みる敗北者が現われます。昨年の九月に、私の勤務中（二十二時四十分）に飛び降りがあり、警察では形式上ですが供述書を取られ、不愉快な思いをしました。

病める人々の苦悩を見抜けなかった自分の不勉強、経験の浅さをなげきました。が、今ではいろいろな面からの勉強が私を待ち受けております。看護技術の面にひいでも、人と人のつながり、どの社会でもいえることも存じませんが、病院という組織はいろいろの階級の人々の集まりで、現代社会を縮小したようなものだと思ひ、私には試練の場所だと思っております。

（筆者は六期生、国立名古屋病院西病棟六階詰め看護師）1125号・インタビューをござんください

みんなの歌

国民の歌

若い日本

作詞 橋本竹茂
補作 西条八十
作曲 飯田三郎

明るく ♩ = 116

1. に ほ ん は い つ で も わ か い の だ く に が さ く ら の
2. に ほ ん は い つ で も す す む の だ く に が ひ を は く
3. に ほ ん は お お き く の び る き だ た ま に あ ら し に

は な な ら ば ひ と り ひ と り が は な び ら だ か が や く ほ こ り を
し ま な ら ば ひ と り ひ と り が よ う が ん だ も え た つ い き と
お れ た と て わ か い め が あ る え だ が あ る が つ ち り く 一 ん で

も つ て い る け だ か い り そ う を も つ て い る
じ ょ う ね つ で せ い き を こ ー え て す す む の だ
ど う ど う と せ か い の う ー え に の び る の だ

さ こ う さ こ う よ さ き と お せ に ほ ん よ に ほ ん よ わ れ ら の に ほ ん
も え ろ も え ろ よ も え と お せ に ほ ん よ に ほ ん よ わ れ ら の に ほ ん
の び ろ の び ろ よ の び と お せ に ほ ん よ に ほ ん よ わ れ ら の に ほ ん

「Vocalize」PR版

発行のお知らせとお願い

A K C ヴォーカライズでは、いま、「Vocalize」PR版発行の準備をしています。これはヴォーカライズに未加入の方への宣伝版であると同時に、現在会員である皆さんが読んでも得るところのあるように、ヴォーカライズの歴史、話題などを掲載する予定です。

内容のおもなものはつぎのとおりです。

- ・座談会「ヴォーカライズとともに歩んで」
- ・寄稿「ヴォーカライズと私」(支部会員)
- ・インタビュー「森下千秋先生(顧問)」
- ・プロフィール「都築健太郎先生(顧問)」
- ・プロフィール「浅井幸三君(五期)」
- ・みんなの歌「旭丘高校校歌」「サリマライズ」
- ・資料「年表・A K C ヴォーカライズ」
- ・資料「A K C ヴォーカライズ規約(内規)」
- ・資料「A K C ヴォーカライズ小辞典」

委員会では、座談会への出席者を募っています。また「ヴォーカライズと私」というタイトルでの皆さんの寄稿をお待ちしています。単なるPR版に終わらず、りっぱな特別号とするよう、ご援助をおねがいいたします。

編集担当・浅井幸三(五) 伊藤真知子(十四)

プロフィール

地道に、コツコツと進む人

こざわ ひろこ

小沢 裕子さん

(十六期)

小沢裕子さん……。この人は、とても
まじめで清潔な感じのする人です。表
面に出る人ではなく、地道に、何でも
コツコツとする人です。また、クラブ
討論などでも、進んで発言するという
ふうではないですけど、指名されれば
はつきりと自分の意見を言う、と言っ
た人です。

このように言っていくと、まじめ一
点張り出、よぶんなことはしないとい
うように見えるかも、分りませんがそ
うではなく、皆ともよく話をしたり、
バレーボールをしたりする明朗な人
です。また、とってもシンの強い人で、
感情をあまり顔に表わしません。私は
もう五年間一緒ですが、一度も小沢さ
んのおこったり、泣いている顔は見た
ことがありません。

それにこの人の字はとてもじょうず
です。小沢さんの性格そのものを示す
ような、細くて形よう整えられた美し
い字は、だれが見ても文句の言いよう
がないと思います。

このまじめな小沢さんも、近ごろ顔の
ところどころに、ポツンポツンとニキビ
を作って困っています。小沢さんも十七
歳、思春期なのかもしれませんね。(オコ
ラレルカシラ?)

× × × × × × × ×

頭のいい人です。教えられたことをす
ぐのみ込んでしまつて、実行できる人
です。たとえば、体操の時間にテニス
をす。たとえ、先生のいったフォームをマ
スターして、みんなをうらやましがらせ
たりします。

音楽部に入つて会計に選ばれたとき
は「部費はがつちり取ります」と宣言し
て、そのことばどりの名会計ぶりを発
揮する強い一面ももっている人です。

最近のご自慢は、始業時間ぎりぎりく
らいに投稿するが、それでも絶対に遅刻
しないこと……。ある人は代表的な模範生
と言います。

シックスシリーズ (61)

小沢裕子さん

(写真はこの欄へおはくりください)
お断り：写真は永井充君のついで
で遅れます。ご了承下さい。

Invention

○：ほんとうなら、12号(四月)
のあとへ特別号を出して、修学
旅行記やら室生寺の旅報告記な
どを載せるはずでした。ところ
が、例によって予定した原稿は
ちつとも集まらず、とうとう五
月号に吸収されてしまったとい
うわけですが。でも、この24ペー
ジはちよつと読みごたえがあるでし
ょう？

○：退会声明をしておいたのに、また会
長になった、と聞いてビックリしました。
そんな理屈に合わぬ話はありません。こ
の号は、特別号流れで、やむを得ず私が
担当しましたが、決してこれからも続け
るという意思表示ではありません。お間
違えなきよう……。

○：私はこのあと、前年度の残った仕事、
Vocalize P R 版の編集をしたら、皆さんに
お別れします。

○：長いこと、ほんとうにお世話になり
ました。ヴォーカライズの仕事をやって
きた八年間に、私はずいぶん皆さんに迷
惑をかけました。そして、礼を言い尽く
せないほどの友情と援助をいただきました。
た。私はいつまでも、皆さんの好意を忘
れないでしょう。力及ばず去るいま、万
感胸に迫るものがあります。さようなら。
御無事で……。

(浅井幸三)

1963.6.16 (日)

VOCALIZE

No.73

発行 AKC ヴォーカライズ 編集 浅井幸三

窓下楽

立原 道造

昨夜は 夜更けて
歩いて 町をさまよつたが
ひとつの窓はとぢられて
あかりは僕からとほかつた

いいや！あかりは僕のそばにゐた
ひとつの僕はとぢられて
かすかな寝息が眠つてゐた
とほい やさしい唄のやう！

こつそりまねてその唄を

僕はうたつた

それはたいへんまづかつた
昔の こはれた笛のやう！

僕はあはてて逃げて行つた
あれはたしかに わるかつた
あかりは消えた どこへやら？

Vocalize <73号>

- ◇三十八年度役員補充選挙告示……………2
- ◇「吉田老再審判決を傍聴して」……………3
- ◇水野俊彦リサیتال(新聞評)……………4
- ◇三十七年度会計報告……………6

6月の演奏会

名古屋

◇クラシック◆ポピュラー■ステージ

◆マントバーニ管弦楽団演奏会

2日6:30 市公会堂

■越智実バレエ団「カルメン」公演

横井園生指揮・名古屋放送管弦楽団・名古屋シティ
コーラス 5日6:30 文化講堂

◇幸声会合唱団定期演奏会 指揮 川島博、独唱 寺
本久美子、水野俊彦。洞谷吉男 13日6:30 文化講堂

◇五十嵐喜芳(テノール)独唱会 16日
6:00 17日6:30 市公会堂(労音A B)

◇大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会
指揮 外山雄三、ヴァイオリン 津村万里

18日6:30 市公会堂(友の会A)

◆エルマノス・シルヴァ公演

18日6:30 文化講堂

◇山根弥生子ピアノ演奏会

22日6:30 CBCホール

◆デュークエイセス・リサیتال 23・24日
6:30 23日1:00, 6:30 市公会堂(労音C)

◆サーフライダー・ハワイアンズ公演

26日6:30 文化講堂(友の会B)

7月

◇吉川雅夫(マリンバ) 2日・中小

◇クラウディオ・ピルラ 4日・公(音協)

◇ハバナ・キューバン・ボーイズ 6日・文

◇大橋国一(バリトン) 11日・公(労音)

◇ハバナ・キューバン・ボーイズ 12, 13, 14, 15日・公(労音)

◇東海女声合唱団 15日・文

◇平岡養一(しろふおん) 18日・公(音協)

◇キャノンボール六重奏団 21日・公

A K C ヴォーカライズ

昭和三十八年度・補充役員選挙・告示

東京・大阪・A(567) C(12)

さきの役員選挙で決定に至らなかったA(567期) C(12期) 両ブロックと東京・大阪両支部委員の選挙をつぎのとおり行います。当該ブロックの会員は、必ずご投票下さい。

記

一、選任委員

Aブロック(567期) 一名

C(12期) 一名

右は、Aブロック三名、Cブロック二名による決選投票

東京地区

二名

大阪地区

二名

右は、地区会員による全体投票

一、投票方法

同封の投票用はがきによる郵送方式

一、投票締切

六月二十九日(土) 〓消印有効〓

以上

昭和三十八年六月十五日

A K C ヴォーカライズ

投票のしかた

今回の選挙で、実際に投票していただくのは、Aブロック(567期)の15人、Cブロック(12期)の12人、それに東京・大阪両支部の会員ということになります。もちろん、だぶる方もありますので間違いのないようにしてください、

「A、C両ブロック」

さきの役員選挙で、Aブロックは毛利豊君、水野俊彦君、佐々知子さんが、Cブロックは高橋洋子さん、高原敏子さん(旧姓神藤)が、それぞれ同数の得票で、決定にいたりませんでした。今回はこれらの方の名が印刷してありますから、うち一人に〇印をつけてください。投票できるのは、自分のブロックについてだけで、Aブロック会員はCブロックについては投票できません。

「東京・大阪両支部」

支部委員は正・副一名ずつ、計二名とします。得票順により、正・副委員とします。投票用紙には支部全会員の氏名が印刷してありますから、あなたの名が出ている支部の中から、二人に〇印をつけてください。支部会員には、学業のため当該地に居住している人〓休みには帰郷する人〓を含んでおり、この人たちから委

員を選んでいただくことはさしつかえありません。しかし、一人は必ず継続的に居住する地元の会員を選んでください。なお、学業のための寄留者は期を〇で囲んであります。例・⑭〓十四期生で家を離れて当該地にいる会員〓

「その他の注意」

- ・必ず投票してください
- ・よそのブロック、支部には絶対に記入してはいけません。
- ・東京・大阪支部で、A、Cブロックに該当する方は、両方に投票していただきます。

会長・森本、副会長・鈴木道

浅井会長離脱で繰り上げ決する

〓号に掲載したとおり、浅井幸三君(五)はヴォーカライズから離脱しましたので、会長・副会長は、さきの役員選挙の得票順により、つぎのとおり繰り上げ当選しました。

会 長 森本 進(十) 〓前〓

副会長 安田軍二(十三) 〓新〓

副会長 鈴木道郎(十二)

また、編集委員として、伊藤真知子さん(十四) 〓前委員〓が参加されます。

吉田老再審判決を

傍聴して



横橋貞雄

名高裁の前は、世紀の判決を前にして異常な緊迫感と興奮に充滿していた。テレビ車、一般車両等で埋まった構内にはいり、さっそく所内の友人を呼び出して特別傍聴券とかいうイカメシイ切符をもらい入廷。

中は騒然としており、報道関係者のワメキ声が一段と高く聞こえる。全く、日本中の報道人たちの取材競争が、高裁判事四部の大法廷に結集したかの感を与える。吉田老人が入廷と同時に、ありとあらゆるカメラはフラッシュをたき、テレビカメラは回転しだし、立ち遅れたカメラマンは傍聴席の上に乗っかる。吉田老のまわりにウンカのごとく群がり、薄暗い法廷内にフラッシュの閃光が交錯し、それが吉田老のみがかれたオツムに乱反射して実にみごとな光のページェントをくりひろげている。何と無関心なカメラマンたちか？ 餌を見つけて相克する獣

にひとしい。人間であるなら高齢者にいかに対処すべきか、わきまえているはずだ。私は思う。報道人の介入が今まで認められなかった理由、つまり、審理妨害、法廷秩序の錯乱、人権侵害、これら三つの危惧がすでに予知され、門戸を閉ざしていた。これが的中したにすぎないと。公開裁判を前提としている以上、マス・メディアの介入は自然かつ当然であるといわれるが、それをそのまま受け入れるわけにはいかない。仮に通例とするにしても、神聖な裁判を報道者の生存競争の場と化することなく、適切な善後策が必要だ。すなわち、プロダクションを創設

するとか、社名にかかわりなく少数精鋭のみを現地に派遣し最大限の能率を上げるとか……。報道人のかかる醜態は、仕事熱心というより、ハオテンポの活動写真を見ているようで、こっけいな感じさえするのである。

再審制度の拡張問題点として、明治時代の古い審理形態からの脱皮、疑問ある被疑者はどしどし再審請求ができる。今回がその端緒となったことは言うまでもないが、裁判に対する不信感が高まるのではあるまいか。広く識者たちの共鳴を得たことは事実である。が、金と時間があれば何とかなる、といったあいまいな安易感を与えてしまつては厳正な裁判は

できない。……「ハア、私ハ有罪ニナリマシタ。デモネ、公判デハ終始無罪ヲ主張シテキタカラ、十年バカリタツテ再審請求デモ提起スルンデスヨ。ソシテ補償金ヲガッポリト、元手イラズデ、ボロイ商売デスワ！」ということにならないように。自由な門戸開放も喜ぶべき方向ではあるが、人権擁護内でのワク決めがたいせつである。

また、昭和憲法下における旧刑訴の登場で大いに喜び、事件、判決はさておき、判事の尋問が大幅に広げられており、証拠選択権が判事権限である中での裁判過程、判決内容に期待をかけていたのである。スピード審理にも似ず、あれほど充実した判決を下したのは意外であった。実をいうと、私としては吉田老の無罪は確信していたにもかかわらず、必ず何かモヤモヤしたものが残ると思っていたのであるが、トンデモナイすっきりした無罪だった。しかも、結びに先輩判事の誤りを認め、陳謝これ努めたのは、異例づくめの今回の旧刑訴裁判で、ひときわ精彩を放っていた。

吉田老の余生をあたたく見守り、心の底から判決を祝福したい。(おわり)

デジタル注 吉田老の再審とは、「吉田巖窟王」事件で、1953年に千種区であった殺人事件。吉田氏は主犯とされ、服役後再審を起(こ)して、無罪を勝ち取った(1963)。

第二回 水野俊彦リサイタル

五月十六日夜・愛知文化講堂
表現力に進歩をみせ、声価を固める

水野俊彦君（六）の第二回リサイタルは、五月十六日午後六時三十分から愛知文化講堂で催された。第一回リサイタル（昭和三十四年十二月八日）から数えて三年半、地元には少ないテノール歌手として大いに囑望されてデビューをしてから今日まで、各合唱団のトレーナー、指揮者をつとめる一方、明和高校音楽科で教鞭をとり、また放送、演奏会などで、多忙な日々の中で、地道に続けられた研究の発表をする日であった。

加えて、今回はピアノに伊藤瑤美子さんを迎え、芸大時代のコンビが復活するという話題もあった。伊藤さんはAKCに二年中途まで在籍、はじめて鯨光館でAKC発表会が開かれた三十年代には、菊里高校からかけつけソロ、コーラス伴奏に活躍した人である。また第一回リサイタルのピアノリスト柴田彰子さんの妹さんにあたる。

会場は先回り劣らぬ入りで、約八割五分の入場券が出たというから、リサイタルとしては成功といえる。

ヴォーカライズ関係者の顔も多くみられ、都築先生をはじめ加藤 清（四）、浅井幸三（五）、足立孝子、安田良江（六）、永井 充（八）、大橋佑子、千本木宣子、森本 進（十）、高橋洋子（十二）、川村朋子、桜井茂徳、志水照代、水野公子、安田軍二（十三）、伊藤真知子（十四）、磯貝文江、津坂絢子、太田岸子（十五）、の皆さんがロビーで久々の対面を喜び合っていた。

なお、当日予定されていた記念茶話会は、参加者のつごうなどで中止となった。しかし十名ほどはそのまま茶店へはいり込み、当夜の感想などを話し合った。

今回は新聞評、紹介記事でリサイタルのもようをお伝えし、会員諸兄姉の感想はつぎの機会に譲る。

あなたの感想をおきかせください
リサイタルへおいでくださった方は、当日の批評、感想をお寄せ下さるようお願いします。

第二回

水野俊彦テノールリサイタル

昭和38年5月16日（木）6:30
名古屋栄町 愛知文化会館
ピアノ伴奏 伊藤瑤美子

【プログラム】

- ・ お花よ奇しき女神 ピエツィー
- ・ すみれ スカルラッティ
- ・ 星がまたたいた チマール
- ・ 望郷 チマール
- ・ 霧 レスピーギ
- ・ 七つの小さな歌 ペルシコ
- ・ 帆船。不在、孤児、夜の悲しみ
- ・ 最後の歌、雪夜、天使
- ・ 何故私は目覚めるのだろうか
- ・ (歌劇「ウエルテル」より) マスネー
- ・ さらばミニョン トーマ
- ・ (歌劇「ミニョン」より) トーマ
- ・ ロマンズ トーマ
- ・ (歌劇「ミニョン」より) トーマ
- ・ スペインのマドリガル ウァールテ
- ・ グラナダ カレーハ
- ・ 秋 クルティス
- ・ ふるさとの太陽 ダンニバーレ
- ・ 君を求めて クルティス
- ・ アンコール 忘れな草 クルティス

ニュース 短 信 ◇…伊藤真知子さん（十四） 自宅に電話が開通した。××× ◇…浅井幸三君（五） 六月九日開かれた名古屋労音総会で、本年度運営委員として再選された。制作部（例会企画、事業、編集などをする担当）に加わり、主として	△朝日新聞・五月十七日夕刊芸能欄▽ 熱演の公判で成果 水野俊彦リサイタル 第一回リサイタルの当時から数えて三年半。高校で後進の指導に当りながら、自らも研究を積み重ねてきた、その成果が今回の発表会に盛り込まれている。作品の中にはたしかにそうした意味での努力のあとが刻まれている。イタリアものの歌曲の定型といったものが忠実に守られ、終始。自己のペースで歌われている。作品全体のうち、とくに後半に力を入れ、演奏効果をひき立てようとする歌い方もかなり成功していたようだ。たとえば、歌曲の部ではレスピーギの「霧」ペルシコの「天使」など。またトーマの歌劇「ミニョン」の中の詠唱「ロマンス」や、イタリア民謡では、クルティスの「秋
機関誌「ハーモニー」の編集などにあたる予定。 ◇…若林延昌君（五） 十一月十日に結婚式をあげることに決まった。 ◇…水野俊彦君、容子さん（六） 十月に第一子出産の予定。	「君を求めて」など、かなりの熱演で、聞かせるものをもっていた。 もちろん、そうした独唱ばかりなら申し分のないところだが、曲により、また、はじめと終りを比較してみても、できばえに差があったとはいえない。歌の喜びが聞き手の心へ乗り移らぬまま、押さえた表現だけが外へ押し出されたようなスカルラッティの「すみれ」や、音階によって声質にムラがあったペルシコの「帆船」「夜の悲しみ」などはやや聞きづらかった。また、弱声では、テノール歌手としてもう一つ声の魅力がほしいところ。 伊藤瑤美子のピアノ伴奏は「スペインのマドリガル」では、おもしろくよく歌っていたが、それ以外の曲は、音が重く、散漫な印象が強かった。（五） △十六日夜愛知文化講堂
【昭和38年度会費納入者】 ＝6月15日現在＝12人 近藤磨理子（五） 足立孝子（六） 横山二三子（七） 石井よし子（九） 園部靖子（十） 佐藤治江（十一） 小出幸子（十二） 岡島 孝（十三） 二井真智子、矢野公子（十四） 小沢裕子、渡瀬陽子（十六）	△中部日本新聞・五月十七日朝刊市民版▽ 豊かな表現力 水野俊彦第二回リサイタル 中日こども会の創立十五周年を記念するテノール歌手、水野俊彦の第二回リサイタルは中部日本新聞社、同会の主催で、十六日午後六時三十分から愛知文化講堂いっぱいに聴衆を集めて開かれた。 水野は東京芸大声楽科の出身で内実、ニコラ・ルツチ、鷺崎良三らに師事し、現在明和校教諭。 伊藤瑤美子のピアノ伴奏で、ペルシコ「七つの小さな歌」チマーマ「望郷」など、得意とするイタリアの近代歌曲につづいて、歌劇「ミニョン」から「ロマンス」スペイン民謡「グラナダ」など十数曲を披露したが、よくねれた美しい声をこまかく使いわけ、豊かな表現で、深く詩の心を歌っていた。

AKC ヴォーカライズ・昭和 37 年度会計報告

(昭和 37.6.10～38.4.30)

[収 入]		[支 出]		[備 考]
前年度繰り越し金	450	中質紙 (Vocalize 印刷用)	1,350	(収入-支出) -2,215
36 年度分会費		原紙 (同上)	1,440	写真代未払い -5,000
卒業生 (6×300)	1,800	封筒 (同発送用)	1,070	36 年度 (13 枚)
在校生 (2×200)	400	切手 (同郵送費)	6,620	37 年度 (12 枚)
37 年度分会費		はがき (CHORUS 他)	3,665	未収金 (会費)
卒業生 (33×300)	9,900	数字印	80	36 年度 3,700
在校生 (8×200)	1,200	支部印 (地区つどい連絡)	440	37 年度 10,800
後期入会 (4×100)	400	その他 (見舞い、香典)	1,500	
計	14,550	計	16,765	差引計 7,215

昭和 38 年度予算

[収 入]	前期末収金 (会費)	7,215
	会費・卒業生 (78)	23,400
	同・在校生 (3)	600
	計	31,215
[支 出]	Vocalize 発行費	8,000
	同 発送費	10,200
	CHORUS 他はがき	5,000
	プロフィール写真代	5,000
	その他 (予備費)	3,015
	計	31,215

Vocalize 休刊は必然
会費納入不良で赤字増すばかり

昭和三十七年度の会計報告は、上記のとおりですが、三十六、三十七年度にわたって会費の納入状況が非常に悪く、ごらんのとおり赤字財政であります。もし、「Vocalize」が毎月休刊なしに続いたら、赤字の額は一万五千円近くになっただろうと思われます。つまり、休刊騒ぎは、会計上のしわ寄せ(会費の集まりが悪い)として必然であったといえます。すべて自腹を切ったの上のことです。会員一人一人の会費滞納が、いかにヴォーカライズを弱めているかを物語るものです。

Invention

○：横橋君の原稿は、使うときがなくて持ち越されていたものです。時間的にみて、いささかぐあいの悪いものになりましたが、お許しを願っておきます。

○：藤野絢子さんから「十三期の会」の報告がきていました。これは安田君のものより先に森本君の手元へ届いていたようですが、連絡がなくて、安田君の原稿だけ使ったのです。似たような内容ですので、本号にも掲載せず、ボツにさせていただきます。藤野さんには申しわけないことをしました。

○：このごろは、会員の皆さんの自宅へ電話しても、「ヴォーカライズの浅井」で家の人へわかっていただけようになつていました。これも、ヴォーカライズの八年の歩みのたまものでしょう。ヴォーカライズ・ファンの私には、とてもうれしいことでした。

○：ほっておくと、ブルブルと残った仕事をやらされそうですので、強行手段に訴えて、この号で手を引くことにしました。ヴォーカライズの役職からは去つても、これまで同様に、親しくおつき合いくださるよう、紙上を借りてお願いいたします。家へもぜひ遊びにおいでください。(あさいこうぞう)

19(4).1.20(H)

VOCALIZE

No.74

発行 AKCヴォーカライズ 編集 安田軍二

船室の夜 (北海) より

ハイネ

かの海に真珠あり
かの空に星はあり
ああされど
わがむねに 愛はあり
わがむねに 愛はあり
かの海は かの空はおおいなり
ああされど いやさらに
おおいなり わがむねは
真珠にも星にもまして
ひらめけり かがやけり
わが愛は
うらわかきおとめごよ
きたれかし
おおいなるわがむねに
わが胸とかのうみとかの空と
あいをもとけあへり

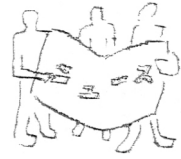
目次

- 2頁.....ニュース、今月の詩、委員の決定
- 3頁.....二月二日AKC発表会
- 5頁.....コーラス
- 8頁.....寄稿「ヴォーカライズと私」
- 9頁.....この世で一番安いもの
- 11頁.....文化祭
- 12頁.....プロフィール

1月の演奏会

名古屋 ◇クラシック ◆ポピュラー

- ◇中山悌一独唱会
10日 6:30 市公会堂 (労音)
- ◇巖本真理リサイタル 14日 6:30
市公会堂 クロイツェル他
- ◇フランス音楽同好会 15日 6:30
名古屋日楽ビル四階「ラベルのタペ」
- ◆エラ・フィッツジュラルド 黒人女性
歌手 16日 6:30 県文化講堂
- ◆鈴木章治とリズムエース
16,20,21日 6:30 市公会堂 (労音)
- ◇谷桃子バレエ団「白鳥の湖」ABC
交響楽団 18日 6:30 19日 1:00,
5:00 市公会堂
- ◇貝谷八百子バレエ団公演
22日 27日 6:30 市公会堂
- ◇名工大合唱団
17日 6:30 県文化講堂
- ◇名大男声合唱団 24日 6:00, 26日
2:00 市公会堂
- ◆ザ・グレンミラー
26日 3:00, 6:30 県文化講堂
- ◇ウィーン八重奏団
27日 6:30 県文化講堂
- ◇CBC合唱団芸術賞受賞記念公演
30日 6:30 県文化講堂



この欄はAKC関係者みんなのニュースを知らせ合うためのものです。だけれのこともどんなことでも、忘れずにご連絡ねがいます。

◇…中尾桂二さん(七)は昨年十月二十五日に藤久ホテルにて会員の同□である□□由紀子さんと結婚式を上げられました。

◇…若林延昌さん(五)は昨年十二月一日に御結婚。新婦は学大の後輩で幸声会で活躍してみえるという加藤君子さん。

新居は守山区守山町×××

◇…川村朋子さん(十三) 転居 千種区××× 電話×××

◇…佐藤征夫くん(十四) 止宿先 札幌市×××

◇…磯貝文江さん(十五) 転居先 千種区××× 電話×××

◇…内藤 毅くん(十五) 止宿先 沼津市×××

追加

中尾桂二さん新居は茨木市×××

デジタル復元注・このページの印刷状態が悪く、判読不能のところがいくつかあります。

昭和三十八年度役員決定者名簿

・会長	森本 進 (十)
・副会長	安田軍二 (十三)
・副会長	鈴木道郎 (十二)
・委員 A	毛利 豊 (五)
・委員 B	永井 充 (八)
・委員 C	高原敏子 (十二)
・委員 D	林 茂樹 (十三)
・委員 E	矢野公子 (十四)
・委員 F	鈴木由起子 (十五)
・委員 G	笠間茂樹 (十六)
・委員	東京 園部靖子 (十)
・委員	東京 横橋貞雄 (十二)
・委員	大阪 松沢暢夫 (六)
・委員	大阪 中尾桂二 (七)
・編集委員	伊藤真知子 (十四)
・編集委員	磯貝文江 (十五)

東京及び大阪の委員□決定について
東京定員(2名)の投票の結果 園部さん4票、石井さん、溝上さん、佐藤さん、横橋さん各1票でした。一票の□□□□□□を決定しましたが御了承下さい。

大阪は藤井さん、松沢さん、中尾さん各一票、無効分として松沢さん2票でした。

今月の詩

船室の夜IIハイネ

加藤久美子

最初に真珠をころがしたような流れるような、この詩を読んだとき、にごつていた心がすうつと澄んでいくような快楽を味わいました。もう一度読みかえしたとき、まっ白の夢の世界へ誘いこまれるようなかやきを感じました。すっかりハイネが気に入ったのでさっそく図書館へ飛び込んでハイネ詩集を借りて読んでみました。実にくだらない(私の気持と詩のかもしれない)霧囲気が合っていない(たので)詩ばかりでしたので途中で読むのをやめてしまいました。その詩集にこの詩もついていたので読んでみました。月とスッポンのような差。訳しかたでこんなに異なるのかとあらためておどろきなおしました。

先日これを訳したのは誰かと思っさがしてみましたがわかりません。ほんとうに残念で残念で。

お知らせ

きたる二月二日(日)、わたくしたち音楽部出身者は、旭丘音楽部発表会の、合同演奏に、参加することに決定しています。

ヴォーカライズの活動も、不活発な現在、一堂に集まって、合唱をすることは、じつに、有益なことだと思えます。そして、先輩の美しいハーモニーを、大いに在校生に、聞いてもらっては、いかがでしょう。それが、先輩と後輩とのきずなを、いっそう強いものに、するのではないでしようか。

合唱の好きな皆さん、高校時代のように、みんなと一緒に、楽しく、ピアノをかこんで、歌いましょう。

歌の好きな皆さんの、多数の参加を心からお待ちしています。

記

日時 昭和三十九年二月二日

午後一時半より

場所 中区役所ホール

上でお知らせいたしました、二月二日の演奏会のための、最後の合同練習を、次のように開きます。

いつも卒業生の参加がすくなく、合同練習とは名前だけで、旭丘音楽部の練習に、卒業生が、ちよつと見学に、来ているような状態です。

二月二日に出演できる人は、必ず、また、できない人も、批評をするために、なつかしい、旭丘の音楽室に、是非、おいでくださいませ。

二十六日の練習は、当日の指揮者、森下先生が、新しいグラランドピアノで、ご指導してくださいませ。

記

一月二十六日(日) 午後一時半

旭丘高校、四階音楽室にて

練習曲

「天地創造」

「自然における神の栄光」

会費を収めて下さい

但し本年度(昭和三十八年度)のみ
会費を在校生一〇〇円、卒業生二〇〇
円とする事になりました。送り先は
名古屋市昭和区××× 安田軍二

この演奏会は、最初音楽部が、単独演奏会を計画し、二月二日のステージを、中区役所ホールに確保したのが、文化祭より前のことでした。何も知らない先輩が、のこの文化祭に出かけて行つて、聞いたのが、「音楽部の単独では、とても全員会で許されない。きみたちとの合同演奏にしてほしい。」という先生のお言葉でした。

それならば、と張りきって、いろいろ相談の結果、ワン・ステージを持ち、それを在校生との合同演奏にしようと決定しました。

演奏曲の選曲の時にも、「校歌」「サリマライズ」はすぐ決定したものの、他の曲はなかなか決まらず、「天地創造」に決定した現在でも、重要なソリストが見つからず、苦労しています。

ソロの経験のある方、(名古屋の人でなくてもよいのです。)引き受けてくださいませんか。

せっかく、卒業生と在校生が、一緒に行なう演奏会、わたくしたちの手で、立派に、成功させたいと思います。どうか、皆さん、ご協力をお願いいたします。

合同演奏会プログラム

1964.2.2 PM1.30～
於・中区役所ホール

第一ステージ

○混声合唱 愛称曲集	サリマライズ 森の教会堂 春の日の花と輝く 帰れソレントへ	オランダ民謡 ピッツ アイルランド民謡 イタリア民謡 福井文彦 作曲	指揮 下条 豊
	「 河 」		

第二ステージ

○シロフォン独奏	天国と地獄 山寺のお尚さん	オフエンバッハ ピアノ	太田岸子 布谷光俊
○カルテット	七つの子 しかられて 他	童謡	T1 桜井茂徳 T2 安田軍二 Br 上田 勤 Ba 中野恒男

第三ステージ

○混声合唱	レクイエム	モーツアルト	指揮 下条 豊
○合同合唱	自然における神の栄光 天地創造	ベートーベン ハイドン	ピアノ 鈴木美根子
	ソロ S 野村圭子 T 高橋昭弘 B		

発表会をもたれること、心
からお祝い申しあげます。
御盛会を祈っています。

大原 総子 (伊勢)	遠山 真砂子 (拝郷)	鬼頭 香糸子 (中尾)	佐久間 雅子 (中尾)	伊藤 吉子 (中尾)	佐々木 泰子 (中尾)	大槻 宏子 (中尾)	木下 淑子 (中尾)	城所 明子 (中尾)	桑島 曙美 (中尾)	綱川 延子 (川竹)	梶田 晃子 (川竹)	稲垣 澄子 (阿部)	岩月 治子 (阿部)	服部 良子 (阿部)	内村 三八子 (安藤)	吉田 明子 (玉野)	三浦 静 (玉野)	大島 修 (玉野)	石原 佳子 (玉野)
---------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------	---------------	--------------	--------------	---------------

Chorus



志水 照代(十三)
空は青く太陽がニコニコ笑い、のどかな日曜日。

一週間に一日の、のんびりした日。
朝寝して昼寝して夜は寝る。又、はかりが泣いちゃうかしら？

PR 昭和三十九年一月十二日、PM
一・〇〇より中電ホールにて箏曲演奏会を行います。お暇な方はどうぞ。御来場の方にお年玉が当るかも知れません。
追 もちろん入場無料です。

近藤磨理子(五)
最近の子供にも手があき、大分暇がもてる様になりましたので、子供の小学校の「主婦のコーラス」に入り大いにはりきっております。
今度催されます音楽会、ぜひ聞かせていただくつもりです。

加藤 清(五)
選挙も終ってホット一息。これからは年末年始の取材でまたまた忙しくなりそう。

合唱の方は相変わらず名古屋シテコーラスで続けています。

服部 修(十二)
卒論及び最後の学生生活をエンジョイするため、日々多忙なり。

太田 岸子(十五)
以前のようにヴォーカライズの機関紙をどんどん発行してほしい。

津坂 絢子(十五)
落ち葉の音がかさかさとして風に吹かれゆくこの頃、何となく去りゆく秋に寂しさを感じます。学校の方は宿題、宿題で追われあわただしい毎日です。

学園祭が十一月十六日、十九日まであったのですが、ファイアーストームもなく人数も少ないためか盛りあがりがなく旭の時代をあらためてなつかしく思い出しました。

水野 公子(十四)
学大岡崎混声合唱団に入っていることは御承知の通り。岡崎にも合唱連盟があつて六月からその当番団体にされて、不なれながらも交歓会を開きました。定期演奏会ならば自分たちのことだけ考えておればよいのですが、連盟となると他団体のことも考慮せねばなりませんので少し大変でした。今音声障害にかかっていますが、歌いたいです。

矢野 公子(十四)
いつも身がっ手な事ばかりで、ちっともお手伝いができなくて、本当に申し訳なく思っております。

この度の御計画、本当にうれしく思います。できるかぎり参加させていたたくつもりであります。

十二月九日の演奏会をひかえて、毎日合唱、ガツショウ、がっしょうと、教科書より楽譜の方が多し位持ち歩いております。

さる二十三日、京都で全日本合唱コンクールを聞いて参りました。日本女子大の素晴らしいハーモニー、まさしく天使の声に、改めて女声合唱の奥深さ、魅力を知られました。

永井 充(八)

仕事の都合が遅れてしまい、今が丁度ゴール寸前の大事なとき。一月中に今の仕事が終わらないとゆく末首におなわがかかってしまう。もっと住みよい社会にしたい。

心にゆとりある生活を！

森本 進(十)

高校への進学が常識みたいになった今日、どこの中学でも八〇九割の進学率を示しているのですが、わたしの学校の進学率は定時制を含めて五八パーセント、クラスによつては半分以上が就職するところもあります。今年はご存知のような求人難、中卒はひっぱりだこ。オール「1」の生徒でも、あたたかくむかえてくれるところもあって、わたくしたちは大変楽です。進学の方もこういう具合にいかんかいナとは思えど：

わたくしたちはこれからが大変です。

高橋 昭弘(十三)

猛烈に忙しい事。
金が全然ない事。

来年、文学部美学科へ行くことになったこと。
このハガキでやっとヴォーカライズを

思い出したこと。

以上、近況及び報告。

一月二十四日(金) 六・〇〇

一月二十六日(日) 二・〇〇

公会堂

名大男声合唱団定期演奏会、よろしく
お願いします。

藤野 絢子(十三)

学校を卒業して二ヶ月。以前にも増しての忙しさに、とうとう熱を出して寝こんでしまいました。もう、ほとんど快復しておりませんが、まだ洋裁の方はひかえて、ぼつぼつというところです。

でも、来年はもっともっと忙しくなり
そうで、今から頭を痛めています。

久しぶりの合唱、とても楽しみにしています。

増田 禮(十三)

旭丘音楽部が発表会を持つという、本当に嬉しいお便りありがとうございました。もう一度皆さんと高校時代のように合唱できたらどんなに楽しいことだろうと、心せかれますが、このところとても忙しい毎日で、練習に出られそうにありませんので、発表会当日は客席の方で応

援させていただきます。

十月の初めの二週間、教育実習のため、南区の南光中学校に行き、二年の生徒と共にすごしました。実習は以前からの悩みのタネでいろいろ失敗ばかりでしたが、生徒は意外に素朴でとっても楽しく、貴重な経験となりました。実習がすんでからも、家に遊びに来たり、手紙をくれたりして、しみじみ「生徒ってかわいいな。」と感じます。二週間「先生、先生。」と呼ばれて、いい気分になっていましたのに、大学に戻ればとたんに生徒に逆戻りで、演習だの講読だのと又責められ、嫌になります。大学生活も、三年目になると何だかひどくふけたような気がして、時々友達と嘆いています。でも毎日の生活はとつても愉快的な幸福なものです。

伊藤真知子(十四)

○年月のたつのははやいもの。大学二年間もはや過ぎ去ろうとしています。

○お正月を迎えても、これといって新しい感慨ありません。もう年ですね。

○今年は成人式いもれてしまつて、すぐツマラナイ。同級生は皆ハタチなのに…。

○二月の発表会、成功を祈っています。

近況

鈴木由紀子（十五）

十二月九日に県女の合唱団演奏会がありました。初めての経験なので、ライトに照らされたとたん体が熱くなつて、夢中で歌って終つてしまいました。それから後、何だか気が抜けてしまったようで何も手につきませんでした。けれども今度サマーセミナー（名工大、市短、県女大の三校で行っています。）の準備委員になってしまいましたので、やらないわけにもいかなりました。冬休みの間もその勉強会などに引っぱり出されて外へ出ることが多く、それも寒い火の気のない部屋でふるえながらやってるんですから、風邪もちつとも治りません。又、ヴォーカライズの方もAKCの演奏会に全面協力体制です。そんなわけで今、自分の損な性分を嘆きながら、さかんに忙しがっています。

鈴木 道郎（十二）

▼ お久しぶりです。皆さまお元気ですか。ぼくもなんとかやっています。
▼ 今、用水路に架ける鉄筋コンクリート橋の設計をやっています。支間六米のちつぽけなやつですが、中々思うよ

うにははかどりません。上橋（人や車が通るところ）は簡単にすませれるのですが、下部構造（橋を支持する部分）については、（ぼくはひねくれていますからね）他人とはちがったタイプで設計したものだから、妙にめんどうになり、基礎杭を打たないと沈下してしまうことになってしまいました。

▼ 来年二月二日、AKCが演奏会をするのだそうで、我々ヴォーカライズ関係者も出演するのだそうですが、一人でも多くの卒業生の参加がありますように…。

安田 軍二（十三）

○心境

去年はこれといったことは今考えてみるとなかったように思う。一、二年の頃は休みになると、その度毎にあちこち出歩いたものだ。無銭旅行あり、山陰ではただで汽車に乗りまわし、上高地では単身、帝国ホテルに泊る。等々とてもない方の活気があって、今では我ながらあきれている。ところが三年になると、こういった家出癖がピタリと止まって一人旅は一度もなかったと思う。いったい何の原因なのかと考えてみるに、金が最近特にないことはもちろん、年をとったの

が直接原因のようだ。つまり、前途に何が待ち受けているかという冒険気どりがバカバカしくなってきた、日常生活のぬるま湯にひたっている方が気楽であると思うようになったのだろう。ぬるま湯にひたっているのもたしかに楽しい。こう考えるようになると今度は他人が一生懸命に活動しているのまでバカらしくなる。やりたいやつはやっておれ、という傍観者の気分になり、多分に冷笑的なふうになる。

昨年一年のぬるま湯にひたった生活で感ずるのは、そんな状態をつづけていき、しだいにバカになってゆく自分ではかわいそうではないかということ。まだ若いのだから体当りしてゆく気がまえがなくてはならないということだ。

林 茂樹（十三）

希望…友達同志ですばらしいバンドを作りたい。

予定…三月の末、沖なわ、九州へ旅行。半分は勉強、半分は遊び。

ヴォーカライズと私

園部 靖子（十）

「ヴォーカライズと私」といったようなことで何か書いて下さいというお便りをいただきました。から、ずい分日がたつてしまいました。この通り、私など会費だけは何とかおさめています。が、何の役にも立たない、存在のうすい会員ですから、「未加入の方々のために……」というには、いささかくすぐすぐたい気持ちになります。でも、本当に私自身の、まったく私個人とヴォーカライズのことについて、感ずるまま、思いつくまま書いてみます。

高校三年間（それも一年生は九月からですから三年よりも少ないのです。生まれは名古屋ですけれども）だけしか名古屋におりませんでした。私は、クラスメートなどには特に親しいお友だちもありません。そうかといつて、あつさり名古屋にいた三年間を忘れてしまうのもしのびない。ですから、ヴォーカライズは私にとつては唯一の、名古屋での高校三年間と私のつながりをのこしてしてくれるものなのです。おまけに音楽を愛好する者、同

じように声を出して一緒にうたったことのある者、一緒に考えて、苦労したもの。そういう人の集まりであることが、一そう何かあたたかいものを感じさせ、身近なものを感じさせるのです。そして、みんなが一緒にいるんだという感じがいつも心のどこかにあつて、そうした安心感が、この殺バツたる世の中にくらしている私には、とてもありがたいものに見えるのです。（少々大げさかしら？）

同窓会などというものは、およそ味気ない、魅力のないものですけれども、ヴォーカライズは、私には、すなおにうちとけられるものをもっているのです。

ヴォーカライズが同級生の集まりでなくて、昔からの卒業生（では少しおしかりをうけるかもしれませんが）からの集まりであることが、また、とてもいいことに思えます。頼りになる兄貴や姉がたくさんいるようなかんじで教えられることもありますし――

AKCの卒業生、在校生の集まりであるヴォーカライズには、「ヴォーカライズ」という機関紙がありますが、それが送られてくると、我家ではひっぱりだこ。私も少しでも早く、ニュースが知りたい

と、会社まで持つて出かけることもたびたびあります。おとなりに座っている彼女達とダベリながらみることもあります。「高校の時のクラブの卒業生たちの会なの。もう十年前の卒業生からいるのー」「へー」「よくまあ」って彼女たちは言います。私には、それがとてもうれしいのです。

大学ではコーラスも少々やりました。でも、魅力のあるクラブでもありませんでした。それ以後、あまりうたったたり、ピアノをひいたりしなくなつた私です。AKCのニュースや、大学のクラブで、また、卒業しても音楽の中で働いていらつしやる方々の活躍ぶりを「ヴォーカライズ」で拝見するのがとてもたのしみです。今はもう、あまり音楽に縁がなくなつている私です。それだけに一そう、あちこちでのみなさんの活躍が、自分のことのようにうれしく、みんながこんなによつていくれるーと思うと、とても安心していられるのです。

「ヴォーカライズ」が出るまでには、私たちが考えている以上にたくさんのご苦労が、きつとあろうと思います。それでも毎月「ヴォーカライズ」が送られて

こないと、忘れられたような、おいてきぼりにされたような淋しい気持ちになります。名古屋にいれば街角で「アラ、コンニチワ！」なんてこともたまにはあります。電話をかければお声もきけましょう。そういうことのできない私たちには、「ヴォーカライズ」はとても大きな役目をはたしてくれます。一緒に学校にはいなかった先輩諸氏や後輩に方たちも何だか昔からの知り合いであるような気持ちでいられるのも、やはり「ヴォーカライズ」のおかげですから。

とりとめのないことをおしやべりしました。それに、かきたりないことも沢山あります。まだはなしたいことも沢山あります。でも、こうした人間のつながりをもっているということ、心のつながりがあるということ、それが決して昔をなつかしがっているだけのものではないこと、それだけでつながっているものでもないこと、大変いいことではないかと思えますし、私は大事にしていきたいと思います。

このよでもつとも やすいもの

この世で最も安いもの……あなたは何かだと思いますか？私はいく思います。：ハガキ……だと。

「物価は高くなるし、今度は又、運賃が値上がりするそうだ」こんな話ばかり聞こえる中で、これはまあ、相も変わらず五円です。

あんな紙一枚と思うからいけません。使い方によっては、五円が何万円のねうちにも、いえ、もつともつとすばらしいねうちになるのです。

あんな一枚の紙切れが、あなたの心をときめかせ、幸せにし、時には悲しませる。不思議なものです。

あの紙一枚に、いったい最高何字位書けると思えますか？裏を使って、表の半分を使って、細かい字でぎつしりと……私のところへきたのには、六百八十九字というのがありました。あなたはいかが？

このハガキが自分の手元にくるまでに、人の手をわずらわすことといったら……。考えれば本当に安いものですね。そういえば、先日、秋田からハガキが

きてました。何となく雪のにおいがしてました。

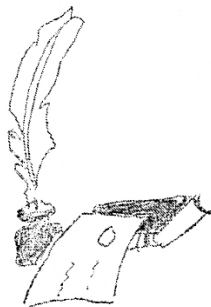
あなたの机のひき出しで、ヴォーカライズのハガキが泣いてはいませんか？

「私がせっかく皆さんに、あなたのようすを知らせようと思ったのに、ちっともポストに入れてくれないんだもの」って。私達は待っています。たった一言でいいんです。「元氣でいます」「生きています」これだけで、皆が安心します。

一言かいてあれば、私達は十倍にも二十倍にも解釈します。いえ、ハガキが教えてくれるんです。

皆さんの様子を、知るために自分のようすを知らせるために、もつともつとハガキを使ってくださいね。

(M・I)



みんなのうた

こんにちは赤ちゃん

コンニチハ あか チャン あな たの え が ー お コンニチハ あか
 コンニチハ あか チャン あな たの い の ー ち コンニチハ あか

チャン あな たの なき ご え その ち い さ な て つ ぶ
 チャン あな たの み ら い に この し あ わ せ が ババ

ら の ひ と み ー は じ め ま し て わ た し が マ マ よ

よ ふ ー た り だ け ー の あ ー い の し る ー し す こ

や か に う つ く し ー く そ だ て と い の る ー コンニチハ あか

チャン おね が い が ある の コンニチハ あか チャン と き ど き は パ パ ー

と ホ ラ ふ た り だ け の し ず か な よ る を ー つ く っ て ほ し い

の お や す み な さ い お ね が い あ か ち ゃ ん ー

お や す み あ か チャン わ た し が マ マ よ ー ー by G.Y.

旭丘高校文化祭

旭丘高校音楽部は昨年十月九日・十一日、二日にわたって発表会を開いた。NHKの合唱コンクール出場をとりやめて、文化祭の練習に時間をかけた。二日にわたる合唱の発表会ではあるが曲目数はそれ程でもなく、さしせまった練習もほとんどなく、一応まとまった演奏会だった。

音楽部発表会 (一)

1部 混声合唱…愛唱曲集
指揮 新沢 宏

9日 PM
3.20～

◇追憶……………スペイン民謡
◇黒い瞳の…独唱大津雅子…ロシア
◇かあさんの歌……………窪田 聡詞曲
◇泉のほとり……………ロシア

2部 ピアノ・ソロ 鈴木美根子
◇スケルツォ第二番……………シヨパン

3部 女声合唱 指揮 富田香代
伴奏 毛受たみ子
◇夏の思い出……………江間章子作詞
中田喜直作曲
◇大きな古時計……………ワーク作曲
◇棚をつくりましょう…まどみちお詞
磯部 俣曲

◇おまつり…独唱岩崎優子…石川年詞
紙恭輔曲

4部 混声合唱…邦人作品集
指揮 長谷川一彦
伴奏 千田幸子

◇わが胸に……………神保光太郎詞
竹西正志曲

◇組曲「月光とピエロ」より
秋のピエロ……………堀口大学詞
志水 脩曲

◇組曲「空・道・河」より 河
江間章子詞
福井文彦曲

◇ふるさと……………室生犀星詞
磯部 俣曲

音楽部発表会 (二)

11日 AM
9.40～

1部 混声合唱……………ロシア民謡集
指揮 三好和憲

◇道上

◇コザックの子守歌

◇アンダンテ・カンタービレ

◇収穫の歌

2部 混声合唱…中田喜直童謡集
指揮 中野和明
伴奏 千田幸子

◇めだかの学校……………茶木 滋作詞
◇カニサンオメメ…斎藤のおお作詞
◇ゆうらんばす……………小林純一詞
◇もんく……………小林純一詞

3部 男声合唱 指揮 岡崎美彦

◇わが歌……………シュポール作曲

◇希望の島……………ジョーンズ作曲

◇サンクタス……………シューベルト作曲

◇いざ起て戦人よ…グラナハム作曲

4部 混声合唱…ドイツ古典合唱曲集
指揮 小池扶甫

◇コラールより
「わが主イエスキリスト」

バッハ作曲

◇オラトリオ「天地創造」第13曲

Die Himmel erzählen die

Ehre Gottes

ピアノ伴奏 鈴木美根子

Gabriel 富田香代

Uriel 下条 豊

Raphael 三好和憲

音楽部顧問 森下千秋

部長 三好和憲

副部長 富田香代

常任指揮者 下条 豊

常任指揮者 小池扶甫

プロフィール

皆に信頼されている人

鈴木由起子さん
(十五期)

鈴木由起子さんを紹介します。

十五期の中で、最もボリユームのある人、といえば、きっと鈴木さんを思い出すことでしょう。(おこらないでね)でもそんなボリユームのある彼女でも、出す声はずいぶん細かい声です。「流浪の民」のアルトソロの時の彼女の声は、きれいな細い声です。

けれども一度怒ると、その細かい声で「ダメ！」へびににらまれたカエルのごとく、相手は小さくなってしまうのです。

けれども彼女は皆からとても信頼されていたのです。その証拠に、副部長だったんですから。とてもとても可愛い副部長さん。文化祭前のいらだった気持ちでいて、ともすれば分裂してしまいう部員をブーブー文句を言わせつつまとめたのは彼女の人格によるのです。

オペレッタの衣装合せ、舞台での演出等、裏方さんとして彼女は太いに働いたのです。

結局、彼女はこわいけれど内面に人

間的暖かみを持つているのです。

昨年ヴォーカライズに加入し、今年早くも委員に選び出されました。その手腕を大いに期待できる人です。現在、県立女子大合唱団で活躍中。

(I)

× × × × × × ×

鈴木さんは現在、県立女子大、国文学科の一年生です。彼女に言わせると「何しろ、いろんな事に首をつっ込んでしまいうので、いそがしすぎる」との事。聞いてみれば、クラブ活動としては卓球部と合唱団、その他県女大の学生会やら、サマーセミナーやら、たしかにこれだけやればいそがしいでしょう。いやひまだからこそ、これだけやれるのかな？ どちらにせよ、あまり目立つ方ではないがフアイトは充分持っている人です。(G)

シックス・シリーズ

鈴木由起子さん

(写真はこの欄へおはり下さい)

お断り…写真は遅れます。

ご了承ください

Invention

○：しかしよくも発行が遅れたものです。完全な分担制にしてガリ切りも四人でしました。書体が多彩すぎて読みづらいんじゃないかと思いましたが、私のようにガリ切りなんか楽フの外にはやった事がないのもいるので：

○：機関紙発行の苦労が、編集をしたり、原稿のうけわたし、その他の連絡等々をして本当にわかったような気がする。「よな云々」は分担制でもこうだから、浅井さん一人でやっておられた時は：というイミである。

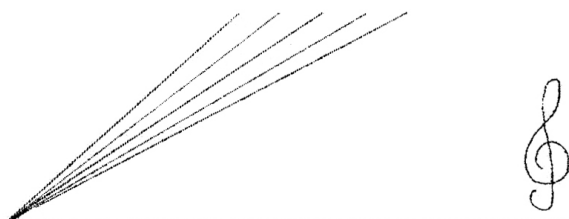
○：二月二日のステージの件、ヴォーカライズの機関紙の発行もごらんの状態なのに、二月二日はキビシイです。せめて当日の合同合唱は卒業生が二十人をこすように努力しなければならぬ。

○：この機関紙発行やその他いろいろ、大きな力になって下さった、編集委員の磯貝さんと伊藤さんには本当に感謝しています。なお退会された浅井さんには陰の力としてアドバイスやらニュース提供や二月二日のステージの事など大いにお世話をかけてしまいました。黒幕ということです。(安田)

VOCALIZE

No

76



A K C ヴォーカライズ 1964 4.20 (月)

うちにいるおかあさん

たき くみこ

きょうから おかあさんが

はたらきを やめた。

だから おかあさんは うちにいる。

くみこ うれしいの。

おかあさんが うちにいると

さびしく ないの。

おやつを たべられるので

うれしいの。

がっこうから かえって

「ただいま。」と いうと

「くみこ おかえりなさい。」

とおかあさんが いってくれる。

おくで あみものを していても

くみこ みえちゃう。

昭和三十九年度 役員選挙号

会長 副会長 二名

ブロック委員 一名

同封のはがきで四月三十日

までに必ず投票して下さい。

4月の演奏会

◇名古屋 ◇CM◇PM◇

◆ビルヒニア・ロペス公演

▶日 夜 市公会堂

◇安川加寿子ピアノリサイタル

▶日 夜 文化講堂

◆ハリージェームスとニュースインギン

楽団公演 12日 昼・夜 市公会堂

◆ゴールデンゲイト四重唱団演奏会

13日～18日 市公会堂

◇イーゴリ・ベズロドニーバイオリン

演奏会 15日 夜 文化講堂

◇ウィーン少年合唱団名古屋公演

20・21日 夜 市公会堂

◇ジャン・ピエール・ランパルフルート

リサイタル 23日 夜 文化講堂

◇ソビエト国立交響楽団公演

22日 夜 市公会堂

◆トリオ・ロス・バンチョス公演

25日 昼・夜 文化講堂

◆渡辺弘とスターダスターズ演奏会

26日 昼 四日市市民ホール

27日 夜 市公会堂

Vocalize 76号

ふろく 昭和三十九年度会員名簿

会費納入状況一覧表

特集 私の仕事

行事 役員選挙

昭和三十九年度 役員選挙

告 示

昭和三十九年度の役員選挙を、つぎの要項で行います。所定のハガキ、方法で必ずご投票下さい。

記

一、選任委員 十二名

会 長 (一名)

副会長 (二名) 以上全体投票

委 員 (九名) ブロック投票

名古屋地区 (五名)

関東・関西地区 (各二名)

一、選挙方法

同封の投票用のハガキに、次のように記入して、必ず期日までにつくように投函して下さい。

・会長・副会長を全体から二名

・委員を自分のブロックから一名

それぞれ名簿からえらんで、所定のらんに正確に書いて下さい。

一、投票締切

四月三十日 (木) ー当日消印有効ー

以上



選挙の方法

- ・従来の方法を改めた点がありますから注意して下さい。
- ・よく読んで無効にならないようにして下さい。



今年度は従来の○△方法を改め、名前を書いていただくことになりました。同封の会員名簿の中から、それぞれの適任者をえらんで、ハガキの所定のらんにまちがいのないように記入して下さい。

会長 副会長については二名連記になりますが、必ずこれは名古屋地区からえらんで下さい。関東・関西地区から選ばれますと無効です。得票順に会長一名副会長二名を決定します。

委員は自分のブロックからえらんで下さい。あなたのブロックはハガキにも書いてありますが、名簿をよくみてえらんで下さい。よそのブロックからえらびますと無効ですから注意して下さい。今回のブロックは次のようになっております。

A ブロック：5・6・7期 B ブロック：8・9・10・11期

C ブロック：12期 D ブロック：13期

E ブロック：14・15期 F ブロック：関東地区

G ブロック：関西地区

F・Gブロックだけは委員を二名ずつえらびますが、投票は一名だけですから、おまちがいなく。なお、従来このブロックの方々は名古屋地区の当該ブロック委員についても投票できましたが、今回は一応それを停止します。したがってどのブロックの方でも、委員については自分のブロック内にしか投票権はありません。

なるべく規定どおり三名えらんでいただきたいのですが、一部について棄権されましたも、別に無効というわけではありません。

投票は無記名ですが、ハガキの表にコーラスらんがありますので、ここに書かれる方は名前を書いて下さい。

上記の選出委員の他に、委員会の決定により、Vocalize の編集委員をえらぶ場合がありますので、この点ご諒承願います。

A K C ヴォーカライズ

退任の

いあいさつ

昭和三十八年度のヴォーカライズは全くの不振のままに終わりました。最初の選挙の時の不手際が、最後まで尾をひいたように思います。とに角弁解の余地なく、私たちの責任です。委員という役目でありながらヴォーカライズのために貢献することはおろか、機関紙 Vocalize の発行すら満足にできませんでした。年度を終わるにあたって、私たちはまずこのことを謝罪しなければなりません。

こうした不振な年ではありませんが、二月二日には卒業生、在校生合同のはじめの公開演奏会を持つことができました。Vocalize の発行さえ満足にできてないときのことゆえ、最初から私たちはどうなることやらと、心配しておりましたが、会員の皆さんがおいそがしい中を多数参加して下さい、一応成功裡に会をとじることができました。もちろんこの催しにつきましては、在校生の皆さんの熱意と細かい配慮によるところが多く、森下先生にはおいそがしい中を、たびたび御指導いただきました。私共委員一同、ここに心から感謝の意を表します。

私たちは全く無能で、何の役にも立てませんでした。その私たちにいろいろ御助言、御指導下さった会員の皆さま、どうも一年間ありがとうございました。今後共ヴォーカライズ発展のためよろしくお願い致します。

ここ二・三年、ヴォーカライズは不振つづきです。来年度こそはヴォーカライズにとってすばらしい飛躍の年でありましょう、私共一同は願っております。

昭和三十九年三月三十一日

A K C ヴォーカライズ役員一同



お願い

会費をはらって下さい

今年度の会計報告は、本号発行まで原稿が間にあいませんでしたので、次号おくりにさせていただきますが、三月末現在では、三十七年度の繰越分五四四〇円、今年度の会費が三〇〇〇円、計八四四〇円の収入になっております。ところが、この中には三十九年度の会費の前納分が三二五〇円もあって、今年度使用できるお金はさしひき五一九〇円しかあ

りません。

支出分につきましては、今のところまだはつきりした額がでておりませんが、本号までの「Vocalize」の発行費だけをとってみしても、五〇〇〇円そこそこでどうてい間に合いません。会費の未納分は年々ふえる一方ですが、このままではヴォーカライズの機能もマヒしてしまいます。現在までの会費の納入状況は別紙の通りですが、この未納額を計算しますと二万円以上になります。プロフィールの写真、委員会の諸費用などは、一部の人達の奉仕によってつぐなわれている事情などもご理解下さって、個人的にはいろいろ事情もあるうかとは思いますが、大至急会費を納入して下さいようお願いいたします。

なお、今年度の会費は、卒業生二〇〇円、在校生一〇〇円ということになっております。この点、おまちがいになく。納入先はヴォーカライズの委員ならだれでもよろしいのですが、なるべく安田軍二（昭和区曙町×××）あてにして下さい。別表記載事項の不審な点につきましても右記へご照会願います。電話は×××です。

私の

しごと



ここに紹介するのはコーラス用のはがきに見る、会員の皆さんのおしごとです。このはがきには「学生なら学校のこと」とあります。学生さんの仕事はやっぱり勉強ということですか。当節の学生さんはすぐもうかるんだそうですがね。前おきはこれくらいではがきをのぞいてみましょう。

到着順

磯貝 文江 (十五)

半分は学生で、半分は先生です。(幼稚園では先生) 幼児はとってもかわいらしいです。私もこんな時があったかと不思議なくらいです。アトムだの鉄人28号だのとやりこめられています。でも本当の先生になったら、もっとうまくなるでしょう。

水野 公子 (十三)

◇ 三月二十日 (金) 春分の日に岡崎で定期演奏会を開きます。その時の曲の研究に大忙し
◇ 全国教育系大学学生ゼミナール第七

分科会音楽のレポーター校になり、開催校も引き受けそうなので、頭をいためています。

◇ 今回の機関紙に若林さんの奥様君子さんのことがのっていました。私も幸声会会員の一人です。そのうちに太田さん (十五) も...と思っています。

横山二三子 (七)

平凡な家庭の主婦の仕事と云えば、育児、そうじ、洗濯、買物、御料理とありふれたことばかり。別にこんな仕事の内にはいませんでしょうか。

池谷 芳子 (十四)

今のところ興味があんまりないし、卒業後の見通しもつかず、無目的なので勉強が面白くなくて困ります。あと半分しかないカレッジライフ、なんとかもって有意義にと思っはいるのですが、誰かカツを入れて下さらないかしら。

伊藤真知子 (十四)

私の仕事はもちろん勉強することです。(ヨクワツカテルンデスカラ) 何の勉強かわからないっておっしゃる方は、一度遊びにいらして下さい。「心理テスト」で

もしてさしあげますから。

藤野 絢子 (十三)

仕事に年中追いかけてられている私です。今年こそはと張り切っては、毎年やっぱり追いかけるのは、それ自体、どこかにむりがあるんでしょうね。

日 教会 セット ??? 洋裁

月 お茶 洋裁

火 お料理 (家で) 洋裁

水 お花 洋裁 (習いに行きます)

木 お料理 (家で) 洋裁

金 お習字 洋裁 (習い)

土 仏語 お料理 洋裁

一週間の時間割です。これでも考えて考えて家庭教師を試験の時のみにしてもらった:

でも若い時は、忙しい方が良く、お年寄りから伺ってからは、あまり苦にならなくなりました。今から思えば、高校時代に存分に遊んでおいてよかったと、つくづく感じます。

足立 靖子 (十五)

今ウールを織っています。マフラーやスーツの布、すべて好きなように出来るのですよ。大学に入って音楽部にこそ入らなかったけれど、毎日古くから伝わる

あの糸まきと、機織りの器械との生活、学校と寮とのほんの小さな世界に、世の中のことをすべてしっているような顔をして生きています。

川村 朋子（十三）

九時から四時までの忙しい仕事の間をぬって、コーヒーを飲みに行くコツも覚えしました。会社では、もう「おばさん」なんて呼ばれて悲惑しています。日毎に口が悪くなるらしく、我ながら驚いています。

谷 美保子（十四）

学校のことと云えば、もう一ヶ月で学生生活とも別れなければなりません。（但し卒業見込み）勉強そっちのけで、クラブに専念した二年間でした。一つ残念なのは、英会話をもう少しマスター出来るとよかったのにと思います。会話の時間が週何時間もあるというのに：

松沢 暢夫（六）

私はエンジンの設計をやっていますが、ウチ（川崎重工）のエンジンはどうもオネダンがはる。そこで今年一年かかってこれを二割コストダウンしようと思って

います。また設計のみでなく、宣伝の方にも多少関係していますので、皆をアツといわせる宣伝をしてみたい。

加藤久美子（十五）

元来、私の一番好きなことは、電車にのることと、ストーブ（鉄でできている石炭をたくもの）をたくことですが、冬になって学校でもストーブを入れる様になりました。うれしくって毎日一生けん命、ストーブのおもりをしています。

増田 禮（十三）

大学生活も最後の年を迎え、長い学生生活もこの一年で終わるかと思うと、今までの不真面目さを痛感させられ、何かあせりさえ感じます。

渡瀬 陽子（十六）

担任の先生へのお礼として、何を送ろうかと相談中。「自転車がいいよ」「電気かみそりがいい」「いやスマートな背広のズボンだけ」と種々の意見、役員は何に決めたらいいか困ってしまします。先生の名は「杉山英夫」。

加藤 厚子（十二）
真面目な話ですが、三月一日に洗礼を受けます。本当の意味でのクリスマスチャンとしての生活を送りたいと思っています。

金谷 京子（九）

先生商売マル二年の古株になりました。だいぶ世なれて、ズウズウしくなりました。

永井 充（八）

写真は好きだ、もつと金をもうけたい、いい仕事をするためにも！

原 まき子（六）

私の仕事より、一週間の報告

一月十九日（日）家元のお稽古日：朝十時より、午後お茶会

一月二十日（月）会社関係のお稽古日：夜六時より

一月二十一日（火）団地の奥様相手のお稽古日：午後一時より

四時迄

一月二十二日（水）午前中私自身の茶道稽古、夜甲子園でのお稽古日

一月二十三日 (木) 日中は淡交会初釜 夜大阪の会社関係のお稽古日	鈴木 道郎 (十二)
一月二十四日 (金) 午前中私自身の華道稽古、午後鳳川でのお稽古日	
一月二十五日 (土) 知人宅訪問、及びデパートにてお買物	
私の仕事? 新三菱技術契約課の中の一人です。何をしているかって? お茶くみからはじまり、外国技術の導入に係る仕事をアシストして、手紙もかきまわし、お金の関係もやりますし、タイプも打ちまわし、横文字の手紙も時には。(にが手ですトテモ) けっこうたのしんであそんでます。	
園部 靖子 (十)	
最近「水資源開発」という言葉によく出くわしますが、ダムとか水路などは私達のお家芸ですから、大いにハッスルしようと思っています。	
四月から研究室に入って、講義のかたわら先生のお手伝いをしたり、卒論の実験をすることになっています。私は土質力学を専攻することにしました。卒論のテーマは「軟弱地盤における杭の抵抗について」。土というのは状態によって、ほんの少しのことでもその性質が変わると云う、非常に微妙なものですし、学問としても新しいし、この卒論テーマについても、今までに余り研究されていなかったこともあるので、四月からがすごく楽しみ(ホント)です。	
上前唱三郎 (九)	
仕事そのものは順調すぎて、不安をおぼえるほどです。	
森本 進 (十)	
ボクは田んぼのまん中にポツンと立っている、名古屋のはずれの中学校の先生です。先生の仕事なんてのはわかりきってますから、書いてもおもしろくないかもしれないですね。	
学校は夏時間で八時、冬時間で八時二十分にはじまります。ボクは特別の用事のないかぎり、その一時間前に学校につけるように家を出ます。もちろん学校にはまだ誰もきてません。宿直の先生はたいていまだねどこの中です。職員室にはいつて、すぐ窓をあけて掃除をします。ボクの受け持ちのクラスが職員室の掃除当番ですから、ボクはいつも一緒に掃除をするんです。帰りの当番もそうですが、ボクは掃除をすることがすごく好きです。	
この仕事ですむと、今度は石炭ストーブをたきます。たいてい前日に燃したままです。中の灰をおとしてきれいにし、紙くずと木ぎれでたきはじめます。えんとつがすぐつまってしまいうので、いつも室じゅう煙だらけにな	

ります。このころに他の先生方がぼつぼつ出校され、ようやく活気をおびてきます。

それから職員の打ち合わせが行われるまでに、生徒に今日伝えなければいけないことをカードにメモして、クラス議長にわたします。あとは型どおり、S・T 第一時、第六時の授業

S・T 清掃がボクの仕事です。

三学期にはもうほとんど行ないませんが、このあと補習という余分な仕事がつまっています。いやがる生徒を暗くなるまで教室に残して、知識のつめこみをはかることに大きな矛盾を感じながら、自分ではどうにもできないのが残念です。「人づくり」をやかましくいう世の中に、こんなことをしていて本当に立派な人間ができるのでしょうか。

そのあとのボクのしごととは生徒の進路に関するややこしい書類を書いたり、指導用の資料を整理し、暗くなる前に一度自分の教室へ行きます。別に何のようじがあるわけでもないのですが、ボクの習慣です。それから彼等のグループノートに目を通して家へ帰ります。晩めしを喰うと今度は家庭訪問です。これも楽しいから、ボクの大事な仕事のひとつです。家庭をしり、連区をし

ることはすごく大切なことだとボクは

思っています。夏休みまでに一とおり終っています。三学期に入ると進路をめぐってずいぶん入った話になってきます。ボクにとつては、そうしたこみ入った話のあと、その家の人達とざつぐばらんにいろいろな話ができるのが楽しみです。ウチの連区はおせじにも上流とはいえませんが、それだけに庶民的で、人なつっこい人達が多いのです。時には話がはずんで十二時近くまで居すわったこともありました。

そしてやつと自分の家の自分の部屋におちつきます。これからはあくる日の授業の教材を研究しますが、それがすむと、今度は文集をつくり始めます。今年度ボクが作った文集は計五冊、ヴォーカライズの仕事はほつておいて、一生けんめい「私達の生活と意見」と題する文集をつくりました。これは主として生活指導用につくったものですが、生徒達がこれをほんとに待ちどおしがっているのを思い、ねむいのも忘れちゃって作ったものです。一度どんなことが書いてあるか読んでやろうという方がありましたら、よろこんでさしあげます。

以上、長々と書きましたが、これがボクの三学期の一日の仕事です。ここには一切誇張はないつもりです。同情

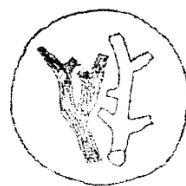
を求めているわけでもないのです。なぜならば、ボクはこうした生活に本当の生きがいを感じ、この上なく幸福な満足感を味わっているからです。



今月の詩 うちにいるおかあさん

この詩は昨年の九月に発行された「文と教育」臨時増刊「日本児童文詩集」からとった。作者は東京世田谷区の小学一年生。こうしたかざり気のない童心に、私はこのごろすぐくひかれる。母親がはたらくことをやめて家にいることが、よほどこの子にとってはうれしいのだらう。やはり家庭では母親はなくてはならない存在なんだなど、妙なところで感心する私である。㊦号にサトウハチローの「小さいあの日にかえりたい」をかきましたが、私もできることなら、何の苦勞もない小さい頃にかえってみたい。どうも私を書くとき、同じような詩ばかりになりますね。

(本)



もうかんべん
して下さい

もりもとすすむ

大変めんばくくない話なのですが、昭和三十八年度はヴォーカライズ始まって以来、最も不振な年であったようです。選挙に手ちがいがあった、最初からすつきりしてなかったのがいけなかったようですが、委員に選ばれた人達が大変めいわくしたり「Vocalize」の発行がとてつおたり、会費がちつとも集まらなかったりして、ヴォーカライズ自体が大きな曲がり角に立たされているように思います。ここで会の意義、あり方を再検討して立てなおす必要があります。

この一年間、私は会長という名をいただきながら、何もしてませんでした。最初からやる気が全くなかったのです。いくら三年生の担任でいそがしいといったとて、プリントの十枚くらい、できないはずはないのですが、とに角、「Vocalize」はすわって出て来るものではなく、一号一号、表紙の詩、プロフィール、ニュースなどを都合するだけでも大変です。そして、やつとので作上げた機関紙を、はたしてどれだけの人がよんでくれ

るのでしよう。よんだとしても、これじやちつとおもしろくないんじゃないかと私は思うのですが、どうでしょう。なにはともあれ、ヴォーカライズが機関紙の発行だけにきゅうきゅうしている現状は、考え直してみる必要があるように思います。

今はもう「Vocalize」のことは考える気もしません。全くフアイトをなくしました。私はやはり子供達のことを考えていた方が幸福です。ヴォーカライズはもつともつと熱意のある人達に運営してもらわなければいけません。私のようなずばらで、人ばかりたよりにしている、頼りない者ではだめです。三十九年度は、委員に熱意あふれる人達がたくさん選ばれ、ここ二・三年の不振を一ぺんにふつとばしてほしいものです。

私は今年は引退するつもりでおりました。が、なんとなく大人げない気もしました。し、仲間はすれにされるのもいやなので、会員の一人にはしてもらうことにします。しかし、委員は全くやる気がありません。それから、最初から辞表を出しておきます。それが許されないのでしたら、しかたがありません、私は会から脱退します。

Invention

○：表紙をみてびっくりされた方が多いことと思います。どうしてかえるんだ、というおしかりをうけるかもしれません。私自身もそういう気持ちにどうしてなったのか説明がつきません。Vocalizeをつくることになって原紙にむかったとき、フツとそんな気になっておもしろいときでかえしました。

○：もちろん、そうしたおもしろいときでかえたものから、レイアウトも何もあつたものではありません。無責任なことで申し訳ありませんが、ささやかなる抵抗としておゆるし下さい。

○：もう一つささやかなる抵抗をこころみました。それは選挙のしかたを少しかえたことです。これは実をいうと、手ずりの良い謄写機がなくて、一枚のはがきにこまかく印刷することがむづかしいからなのです。これもおゆるし下さい。

○：この方法ではいつそう投票率がわるくなるんじゃないかと、一部では心配されています。どうかそんなことのあるりませんよう、期日までに必ずご投票下さい。

○：今月の特集「私の仕事」は一月、二月のお話で、これまた申しわけありません。(森本)